

と み ぐ す く

豊見城市図書館基本計画

[初版]

市民とともに成長し、
豊見城の文化を創り・育む図書館

連携



学校図書館



中央図書館



市民に
愛される
図書館

連携



電子図書館

連携



地域



サービスポイント

令和4年3月
沖縄県豊見城市

「豊見城市図書館基本計画」の策定にあたり

豊見城市（以下、「本市」という。）では、平成8年に豊見城市立中央図書館が開館して以降、図書資料の充実、利用者ニーズへの対応及び生涯学習の支援を行い、市民の多種多様な学習情報の発信拠点としての一躍を担ってきました。

また、中央図書館と学校図書館が連携を図りながら、図書館行政の推進に努めてまいりました。

平成24年には、図書館法第7条の2の規定に基づき、図書館の健全な発展に資するため、「図書館の設置及び運営上望ましい基準」が改正され、図書館は、社会変化等により図書館に対するニーズや地域課題の複雑化及び多様化に対応する必要が求められました。

近年では、ICT（情報通信技術）等の技術革新をはじめ、多様化・複雑化する利用者ニーズへの対応など、図書館を取り巻く環境は大きく変化しております。

そのため、本市の教育及び文化行政推進のための基本計画として、図書館に係る本市の将来像、サービス及び整備・運営等に関する長期的な計画を策定するため、豊見城市図書館基本計画（以下、「本計画」という。）を策定しました。

本計画は、第5次豊見城市総合計画及び豊見城市教育大綱に基づく、教育及び文化行政推進のための図書館に関する基本計画として位置付けており、本計画の計画期間は令和4年度から令和13年度までの10年間としております。

豊見城市立中央図書館は、令和3年（2021年）に開設25周年を迎えました。この間、貸出を通じて市民一人ひとりと向き合うことを基本としながら、施設の特徴である玄関がある2階の広いスペースに開架図書、閲覧スペース及び学習スペースを配置し、1階部分に集会室や閉架図書を配置し、市民の多種多様なニーズに応えてまいりました。また、近年は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための対策や電子図書館の導入に努め、社会環境の変化に応じた新しい図書館サービスを展開してまいりました。

本市の図書館の将来像を「市民に愛される図書館 ～市民とともに成長し、豊見城の文化を創り・育む図書館～」とし、今後は市民と図書館が共に成長し、本市の文化の発展に寄与するような図書館を目指してまいります。

むすびに、本計画の策定にご尽力いただきました「豊見城市図書館基本計画策定検討委員会」委員の皆さま、市民アンケートやパブリックコメント等で意見をお寄せいただきました皆さまには心より感謝を申し上げます。

令和4年3月

豊見城市教育委員会

豊見城市図書館基本計画 [初版]

目次

第1章	はじめに	1
1-1	計画策定の背景	1
1-2	計画の位置づけ	2
1-3	計画期間	2
第2章	豊見城市の図書館の現状	3
2-1	上位関連計画	3
2-2	豊見城市の現状	6
2-3	豊見城市立中央図書館の状況	8
2-4	学校図書館の状況	18
2-5	図書館に関する他市町村（同規模）との比較	20
2-6	市民アンケート	21
第3章	図書館行政における課題	27
3-1	図書館行政における課題	27
第4章	豊見城市の図書館の将来像	29
4-1	将来像	29
4-2	基本方針	32
4-3	重点施策	33
第5章	本計画の推進に向けて	45
5-1	本計画の推進	45
5-2	本計画の推進体制	46
5-3	本計画の見直し	46

第1章 はじめに

1-1 計画策定の背景

豊見城市（以下、「本市」といいます。）では、平成8年に中央図書館が開館して以降、中央図書館と学校図書館が連携を図りながら、図書館行政の推進に努めてきました。

中央図書館では、市民の多種多様なニーズに応える生涯学習支援施設として、図書館資料の充実、利用者ニーズへの対応等を実施し、学校図書館では、児童・生徒の読書活動の支援を行ってきました。

近年、社会環境及び技術革新による変化等により図書館を取り巻く環境が大きく変化しています。平成24年には、図書館法に基づく「図書館の設置及び運営上望ましい基準」が改正され、変化・多様化・複雑化していく図書館に対するニーズや地域課題への対応が求められています。

そのため、本市の図書館行政の基本計画として、図書館に係る本市の将来像、サービス及び整備・運営等に関する長期的な計画を策定するため、豊見城市図書館基本計画（以下、「本計画」といいます。）を策定します。

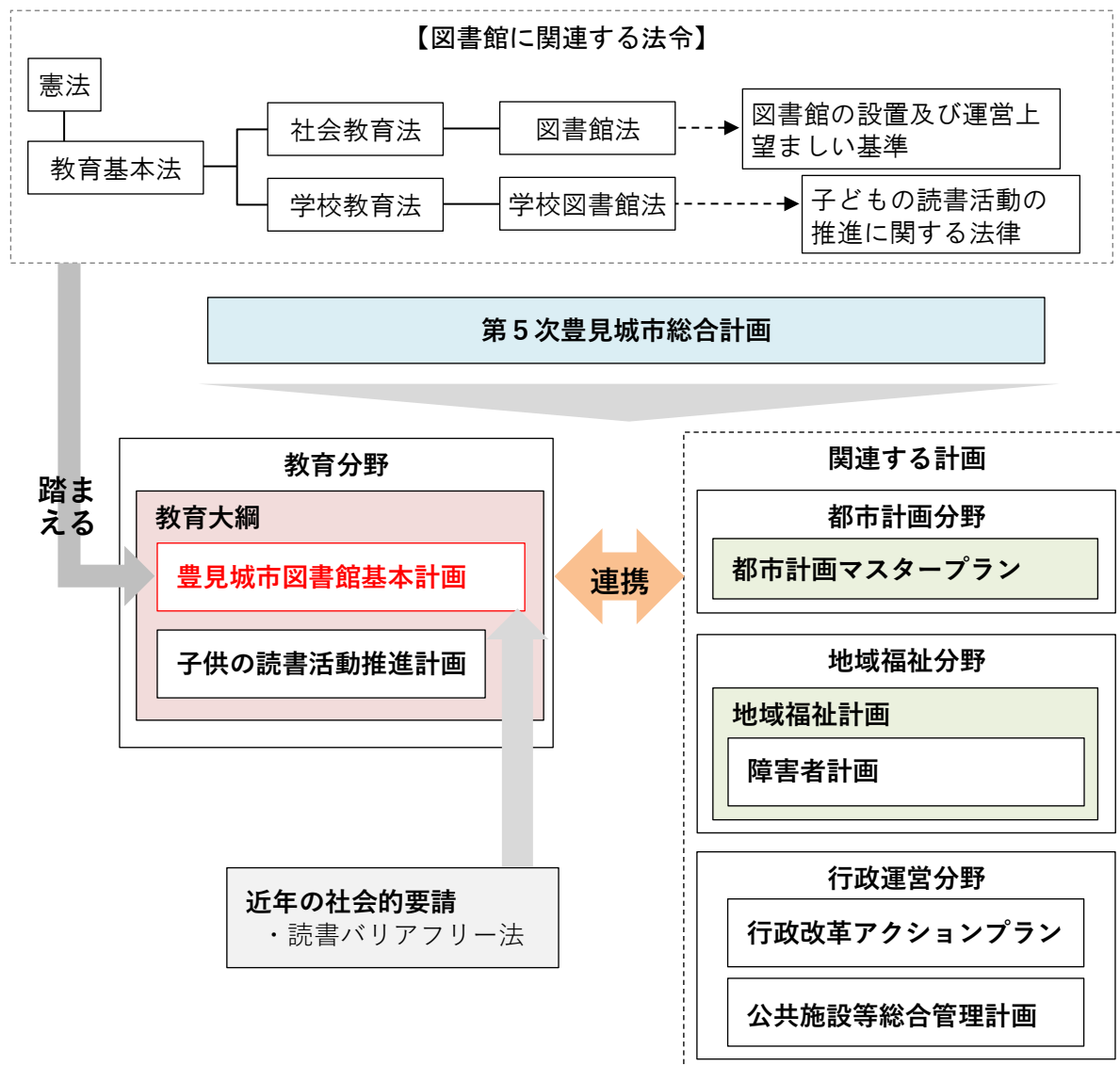
■豊見城市図書館基本計画の範囲

本計画は豊見城市の図書館行政の基本計画として、中央図書館に限らず、学校図書館他本市の図書館行政に係る全てのものの基本計画として策定します。

1-2 計画の位置づけ

本計画は、第5次豊見城市総合計画及び豊見城市教育大綱に基づく、教育及び文化行政推進のための図書館に関する基本計画として位置付け、策定します。

策定にあたっては、図書館法や「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」等の関連法令、豊見城市総合計画や教育大綱を踏まえるとともに、教育分野・都市計画分野・地域福祉分野の各種計画と連携・調整し策定します。



1-3 計画期間

本計画の計画期間は令和4年度～令和13年度までの10年間とします。

	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13
総合計画	第4次計画	第5次 総合計画											
図書館基本計画	検討期間		図書館基本計画										

第2章 豊見城市の図書館の現状

図書館行政に関する本市の現状を「上位関連計画」「豊見城市の現状」「豊見城市立中央図書館の現状」「学校図書館の現状」「図書館に関する他市町村との比較」「市民アンケート」の面から整理を行います。なお、本稿ではその概要のみを記載します（詳細はデータ集を参照）。

2-1 上位関連計画

本計画の策定にあたっては、以下の法令や計画と整合を図り策定しています。本稿で、主要な計画のみ（★マーク）記載しています。

■法令・基準

1. 日本国憲法
2. 教育基本法
3. 社会教育法
4. 図書館法
5. 図書館の設置及び運営上望ましい基準
6. 学校教育法
7. 学校図書館法
8. 子どもの読書活動の推進に関する法律
9. 視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律（読書バリアフリー法）

■豊見城市の計画

1. 第5次豊見城市総合計画★
2. 豊見城市教育大綱★
3. 豊見城市子供の読書活動推進計画
4. 豊見城市都市計画マスタープラン
5. 豊見城市地域福祉計画
6. 豊見城市障害者計画
7. 豊見城市行政改革アクションプラン
8. 豊見城市公共施設等総合管理計画

1. 第5次豊見城市総合計画

- ・生涯学習による地域交流の推進
- ・ICTを活用した生涯学習の推進
- ・図書館基本計画の策定。学校図書館との連携や図書館資料・行事の充実

■将来像

<基本理念>

『響むまち・豊見城』

<まちづくりのテーマ（将来像）>

『Welcomeな思いで ハートがつながり みんなで彩るまち とみぐすく』

■図書館行政に関する主な記載事項等

（前期基本計画 1 子どもが活きる夢と希望にみちたまち 1-5 生涯学習社会の確立）

□生涯学習のまちづくり

- ・学びの成果を確認する機会の充実、伝統文化や文化芸術の発表の場の提供を図るため、生涯学習フェスティバルを開催し、生涯学習による地域交流の推進を図ります。
- ・様々な学習の場における ICT（情報通信技術）を活用した生涯学習の推進を図ります。
- ・第二次豊見城市子供の読書活動推進計画に基づき、家庭、地域、学校等における読書活動を計画的に推進し、自ら進んで読書に親しむ子どもの育成を図ります。
- ・図書館利用の推進・拡大を図るため、図書館基本計画を策定し、中央図書館と各学校図書館との連携、図書館資料及び図書館行事の充実、令和2（2020）年度に導入した電子図書館等の ICTを活用した図書館サービスの向上を図ります。

□生涯学習推進のための人材育成

- ・生涯学習のまちづくりを推進するためには、様々な市民意見等を反映し、対話を促し、地域生活の課題解決を図っていく人材が求められていることから、社会教育行政（中央公民館、図書館等）職員や生涯学習関係部局職員を対象に生涯学習に関する研修の実施及び研修への職員派遣を行い、職員の資質向上に努めます。

□目標指標

- ①この1年間で自発的に学習（生涯学習）した市民の割合（市民意識調査）
現状値（R1）39% → 目標値（R7）50%
- ②中央図書館における利用満足度
現状値（R1）3.0 → 目標値（R7）3.6（毎年0.1の向上を目指す）
- ③社会教育行政職員（館長、社会教育指導員、図書館司書等）研修延べ時間
現状値（R1）236時間 → 目標値（R7）295時間（毎年10時間の増加を目指す）

2. 豊見城市教育大綱

- ・新しい地域文化の創造
- ・生涯学習のための機会やプログラムの充実
- ・情報活用能力に優れた人材の育成

■目標

『「ゆめ」「まなび」「ひと」を大事にする響^{とよ}むまちの教育』

■ゆめ

目標を立てることで自ら学ぶ意欲を持ち、心豊かでたくましく、創造性・国際性に富む幼児児童生徒の育成を図ります。

■まなび

家庭・学校・地域社会の相互連携のもとに、社会の変化に主体的に対応し得る生涯学習社会の実現を図ります。

■ひと

郷土の自然や文化に誇りを持ち、心身ともに健康で、主体的に社会に貢献する市民の育成を図ります。

■図書館行政に関する主な記載事項等

□地域文化の振興

- ・「グスク」や戦跡などの史跡、文化財の保全と活用に努めていきます。また、地域の誇りやアイデンティティの源泉となるよう、地域に眠る文化を掘り起こし再評価する取組や新しい地域文化の創造の動きを支援します。

□生涯学習社会の確立

- ・いつでも気軽に学び、生涯にわたり新たな知識や技能を習得しながら、自己実現を果たし、生きがいに満ちあふれた生活を送ることができるよう生涯学習のための機会やプログラムの充実に努めます。

□教育行政の充実

- ・市民に開かれた教育行政の展開や国際性豊かで広い視野を持ち、情報活用能力に優れた人材の育成に努めます。

2-2 豊見城市の現状

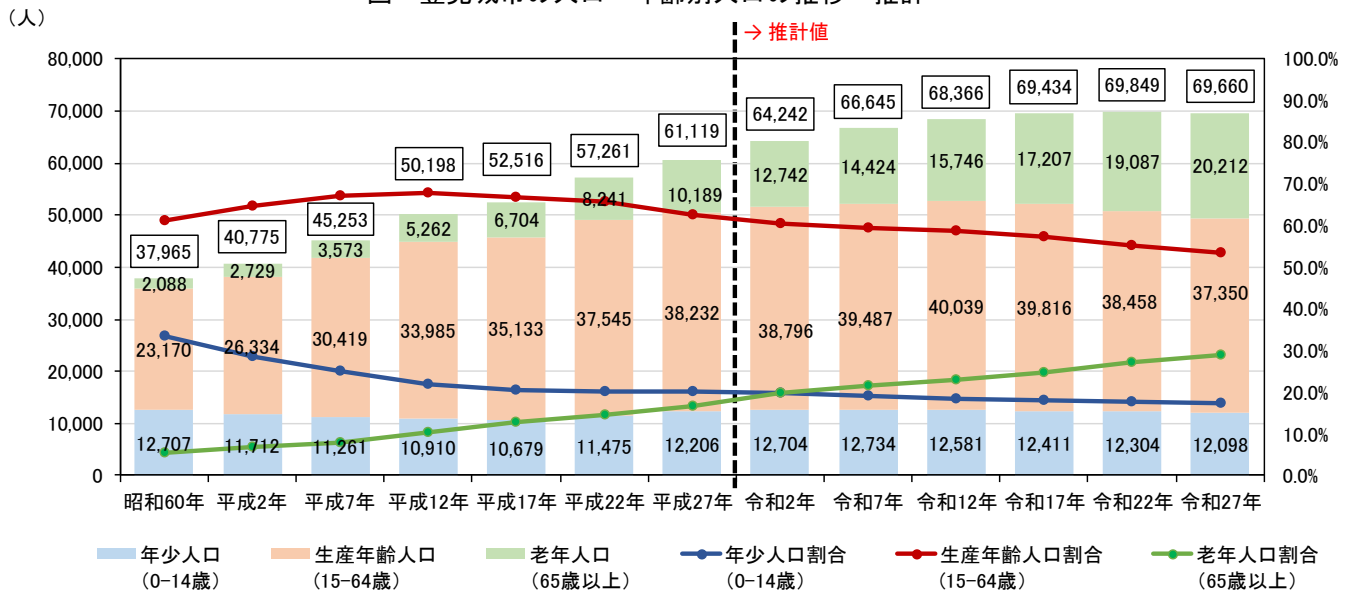
1. 人口

- ・今後も人口の増加が予想されるため、それに見合う規模（蔵書等）や拡大するニーズへの対応が必要
- ・高齢化に対応し、高齢者向けの資料収集やバリアフリーの対応が必要
- ・ただし、現在の年少人口・生産年齢人口の割合は他市町村に比べ高いことから、子供や子育て世代への注力も引き続き必要

本市の人口は平成27年時点で61,119人となっており、増加傾向で推移しています。今後もしばらく増加傾向で推移し、令和22年にピークを迎えることが予想されます。

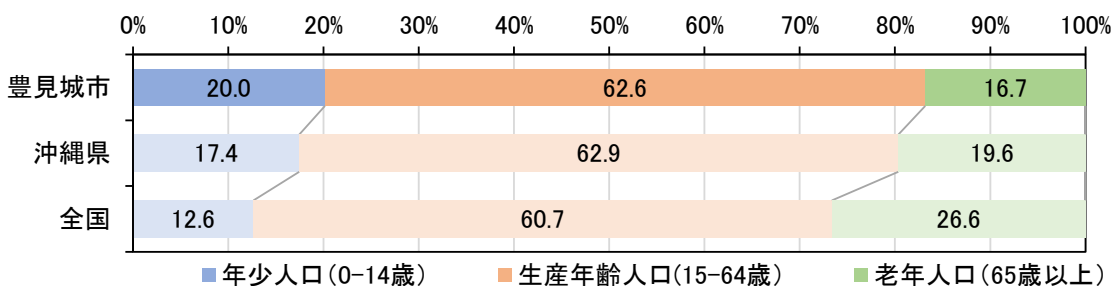
年齢3区分別人口をみると、平成27年時点で年少人口は12,206人、生産年齢人口は38,232人、老年人口は10,189人となっています。年少人口割合は減少傾向、老年人口割合は増加傾向で推移し、少子高齢化が進行していますが、沖縄県や全国と比較すると、年少人口の割合は高く、老年人口の割合は低くなっています。今後もこの傾向は続き、令和27年には老年人口は20,212人と全体の約3割にせまり、更なる少子高齢化の進行が予想されます。

図 豊見城市の人口・年齢別人口の推移・推計



[資料：H27 国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所]

図 豊見城市・沖縄県・国の年齢別人口



[資料：H27 国勢調査]

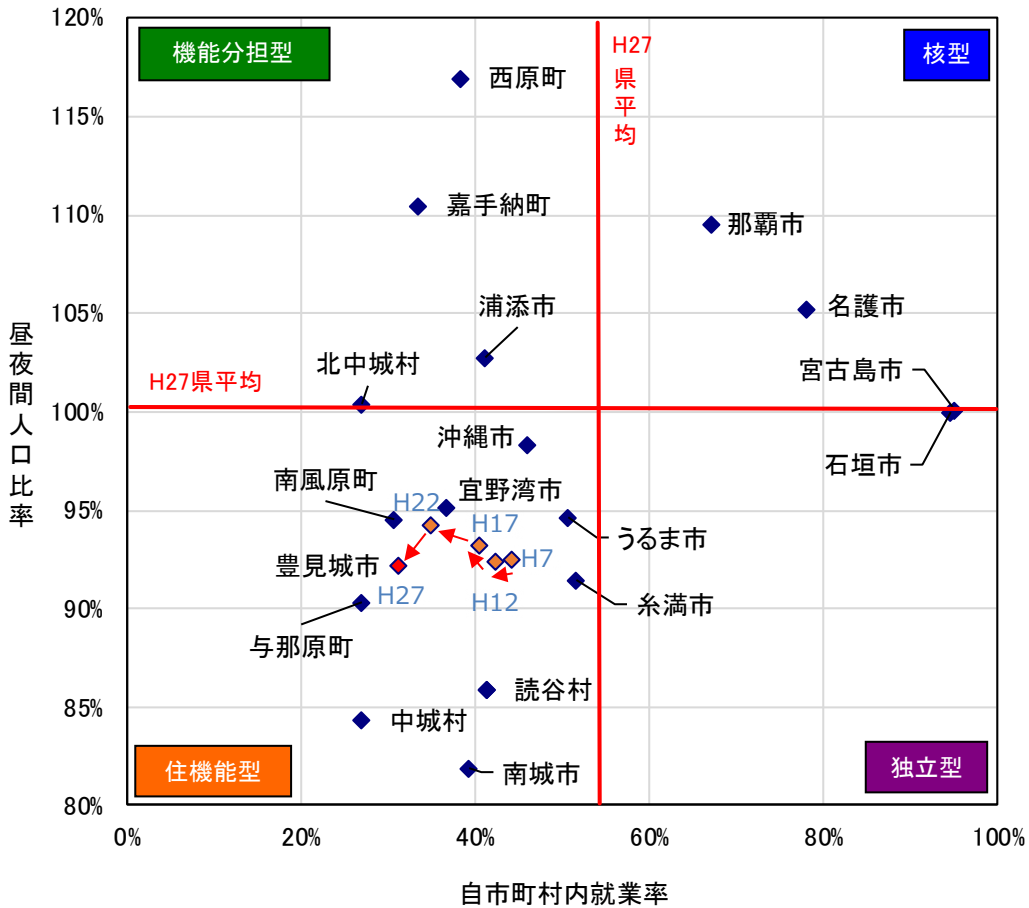
2. 都市の性格

- ・住機能が強い都市の図書館として、平日は子供や主婦（夫）、高齢者をターゲットに、休日はファミリー層が気軽に使うことができる工夫が必要
- ・平日（日常利用）や休日（余暇利用）が多いことが想定されることから、小説等や生活支援機能の充実が必要。一方、ビジネス需要が多いとは想定されない

本市の昼夜間人口比率、自市町村内就業率を沖縄県内の都市と比較すると、昼夜間人口比率、自市町村内就業率ともに平均値以下となっています。

このことから、本市は周辺都市の住宅都市として機能する「住機能型」の都市であるといえます。また、自市内就業率は減少傾向にあり、住機能型の都市の性格はより強くなっています。

図 県内主要都市の自市町村内就業率・昼夜間人口比率



核型：自市町村内で働く人が多く、就業・通学者を含めた昼間の人口が多い都市であり、生活圏における中心都市として機能

独立型：自市町村内で働く人は多いが、昼間の人口は多くない都市であり、1都市である程度独立した生活圏を形成

住機能型：自市町村内で働く人が少なく、夜間の人口が多い都市であり、周辺都市等の住宅都市として機能

機能分担型：自市町村内で働く人は少ないが、昼間の人口が多い都市であり、職・教育等の機能に特化

[資料：H27 国勢調査をもとに作成]

2-3 豊見城市立中央図書館の状況

1. 概要

(1) 沿革

- ・平成8年に開館し、開館後25年が経過
- ・時代の変化にあわせ、土日の開館時間の延長やインターネットにより予約等ができるシステムの導入、ボランティア団体の発足など、様々な取り組みを実施

中央図書館は、平成8年3月に開館し、時代の変化にあわせ、様々な取り組みを進めています。主な沿革は以下のとおりです。

表 中央図書館の沿革

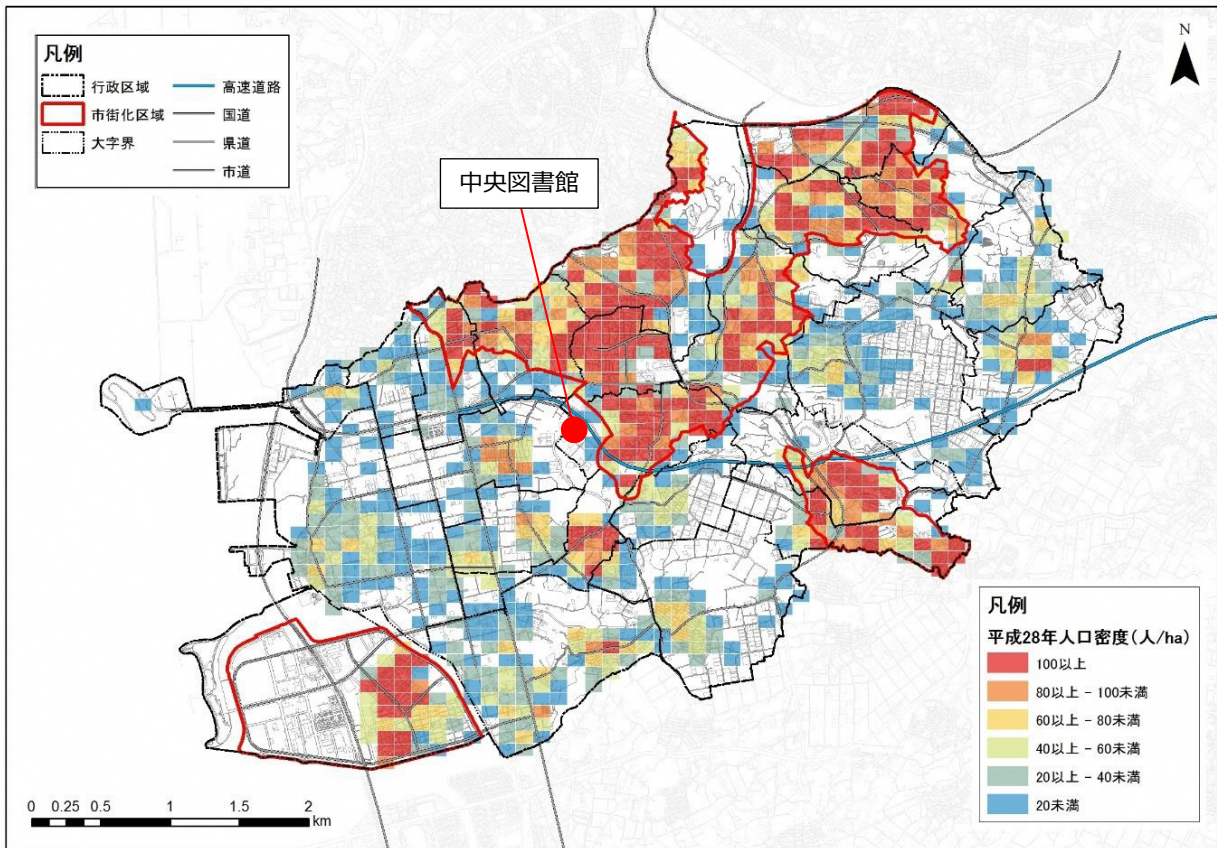
年月	経緯
平成5年 11月	豊見城村立中央図書館基本計画・建設計画書策定
平成8年 3月	豊見城村立中央図書館開館
平成9年 3月	住民一人あたりの貸出が10冊を超える（県内公共図書館で初）
平成12年 10月	第86回全国図書館大会（沖縄県）で優秀図書館として表彰
平成13年 3月	読み聞かせコーナー「おとぎのへや」完成 利用者用インターネット端末機の設置
平成15年 5月	図書館新システム運用開始 真嘉部コミュニティーセンターにブックポスト設置（資料返却が可能）
9月	図書館ホームページ開設 インターネットでの蔵書検索の運用開始
平成17年 10月	沖縄県図書館総合目録システム事業に参加
平成18年 4月	土・日曜日の開館時間の延長
11月	開館10周年記念イベント「図書館まつり」
平成19年 4月	平成19年度文部科学省「子どもの読書活動優秀実践図書館」表彰
平成20年 8月	コミュニティー放送局「FMとよみ」の「おはなしの小部屋（職員による読み聞かせコーナー）」の放送が開始
平成24年 1月	閲覧用機の増設
3月	AVコーナーにDVD・ビデオ館内視聴機器設置
平成25年 3月	雑誌スポンサー制度の開始
4月	図書館新システムを導入（インターネットでの予約・連絡が可能） 「おひざにだっこ」スタート
11月	市内読み聞かせボランティアによる「図夢の会」発足
平成26年 4月	文部科学省のホームページ・図書館実践事例集にて、沖縄県代表として、ブックトークの取り組みが紹介
平成26年 8月	国立国会図書館デジタル化資料送信サービスの開始
平成27年 9月	開館20周年記念イベント「絵本ライブ」「バイオリンコンサート」
令和2年 3月	新型コロナウイルス感染症感染拡大 ※以降、休館措置や開館時間の短縮措置の実施、書籍除菌機や非接触型体温測定機の設置、WEB予約貸出サービスなど対策を実施
12月	とみぐすく電子図書館プレオープン（翌年3月本格稼働）

(2) 立地

- ・市内のほぼ中央に位置
- ・公共交通により市内全域からアクセスが可能

中央図書館は、豊見城市のほぼ中央に位置し、人口密度の高い、字宜保や字上田に隣接しています。また、豊見城市内一周バスが中央図書館前バス停を經由しており、市内全域から公共交通でアクセスすることができます。

図 中央図書館の位置と人口密度



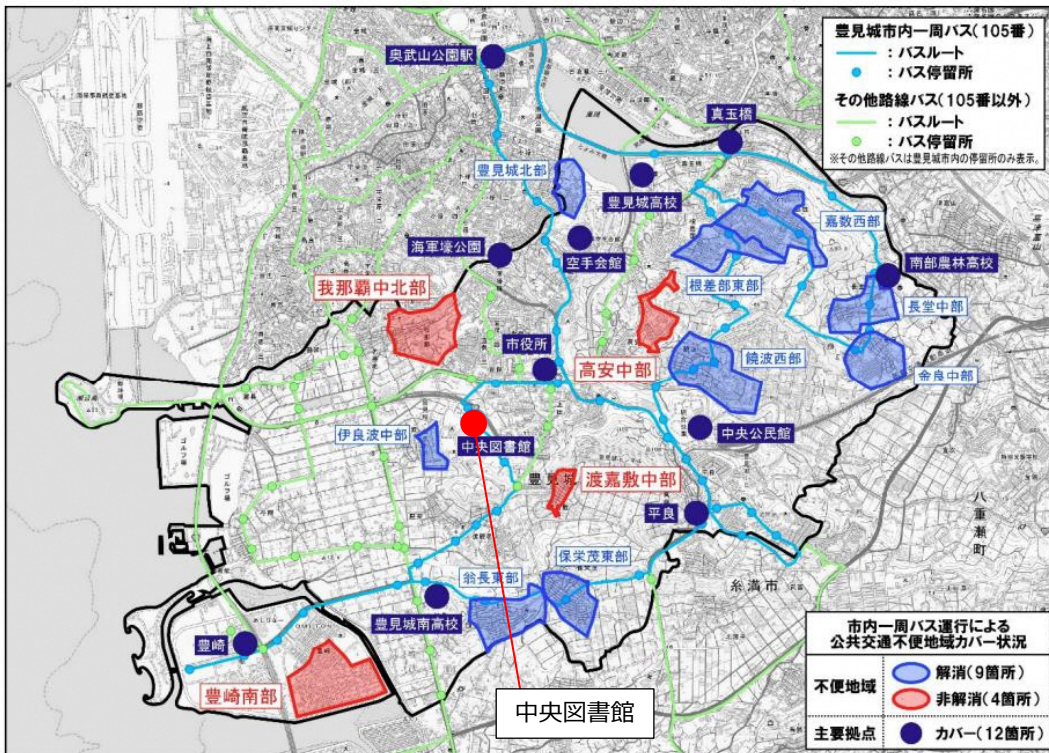
[資料：H29 とみぐすく「まちの顔」拠点づくり計画書<資料編>]

図 中央図書館の位置と公共交通網



[資料：豊見城市交通基本計画（令和3年2月）]

図 本市の公共交通不便地域



[資料：豊見城市交通基本計画（令和3年2月）]

(3) サービス概要

・基本的な貸出サービスの他、レファレンスサービス、インターネット利用サービス、また、オンライン上で予約等ができるサービスを実施

開館時間等、現在のサービスの概要を以下に示します。

表 サービス概要

項目	サービスの内容
開館時間	10:00~19:00 (市内小中学校の夏休み期間は9:30~19:00)
休館日	月曜日、国民の休日(こどもの日及び文化の日を除く※)、慰霊の日、館内整理日、館内特別整理期間
開館日数	令和元年度実績 264日
登録要件	市内在住・在勤・在学者
貸出	<個人貸出> 図書・雑誌…10冊以内/2週間以内 視聴覚資料…2点以内/2週間以内 <団体貸出> 図書・雑誌…100冊以内/1ヵ月以内
その他のサービス	予約・リクエスト・相互貸借 予 約：利用したい本が貸出中の場合は予約可能(図書・雑誌・紙芝居等合計8冊) リクエスト：中央図書館にない図書館資料を年度あたり、一人2冊までリクエストを受け付け、購入・貸出を行う 相 互 貸 借：中央図書館にない図書資料を他の図書館から借用して提供する
	レファレンスサービス 中央図書館内のカウンターにて、図書資料及び調べものに関する質問等に対応
	図書館資料の複写サービス 著作権法の範囲内で、図書館の資料に限り複写(有料)
	インターネット利用サービス 調べもの等に使えるインターネット端末を設置
	オンラインサービス ホームページ上で、利用申し込み、資料予約、資料リクエスト、行事等予約を行うことが可能

※こどもの日及び文化の日の開館は令和2年度より実施

(4) 施設概要

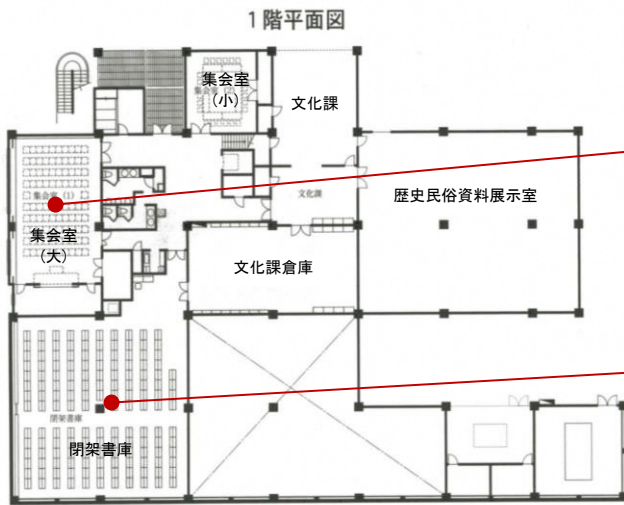
- ・ 玄関がある2階に開架図書、閲覧スペース及び学習スペースを配置
- ・ 1階部分に集会室や閉架図書を配置

中央図書館の施設の概要を以下に示します。

表 施設概要

項目	施設概要		
敷地面積	6,805 m ²		
建築面積	2,322 m ² (鉄筋コンクリート2階建て)		
各階床面積	1階 2,002 m ²	2階 2,115 m ²	中3階 86 m ²
資料収蔵能力	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一般コーナー 45,000 冊 ・ YAコーナー 7,000 冊 ・ 児童コーナー 32,000 冊 ・ 雑誌架 240 誌 ・ 座席数 167 席 ・ 暮らしコーナー 9,000 冊 ・ 郷土参考室 9,000 冊 ・ AVコーナー 10,000 点 ・ 新聞架 24 紙 ・ 閉架書庫 80,000 冊 		

< 1階概要 >



< 2階概要 >



(5) 電子図書館の概要

- ・令和3年3月より電子図書館を稼働
- ・インターネット環境があればどこでも・いつでも本を読む環境を整備

令和3年3月より電子図書館を本格稼働しています（令和2年12月よりプレオープン）。サービスの概要は以下のとおりです。

項目	サービス概要
サービス利用対象者	豊見城市立中央図書館の利用カード所持者
貸出点数	3点
貸出期間	7日間
予約点数	3点
延長	1点につき1回のみ可能
コンテンツ数	約3,140点（令和3年3月時点）

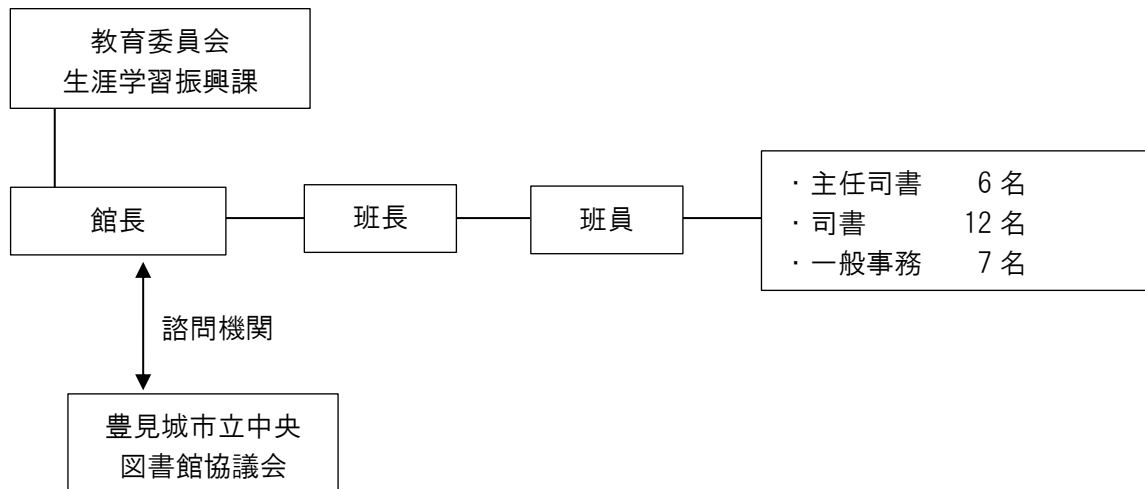


電子図書館のサービス画面

(6) 運営組織

- ・館長を始め、28名の職員で運営
- ・うち、司書は18名

中央図書館は令和3年現在、館長1名、職員2名、会計年度任用職員25名（司書・一般事務）で運営を行っています。このうち、18名が司書の資格を有しています。以下に、運営組織図を示します。



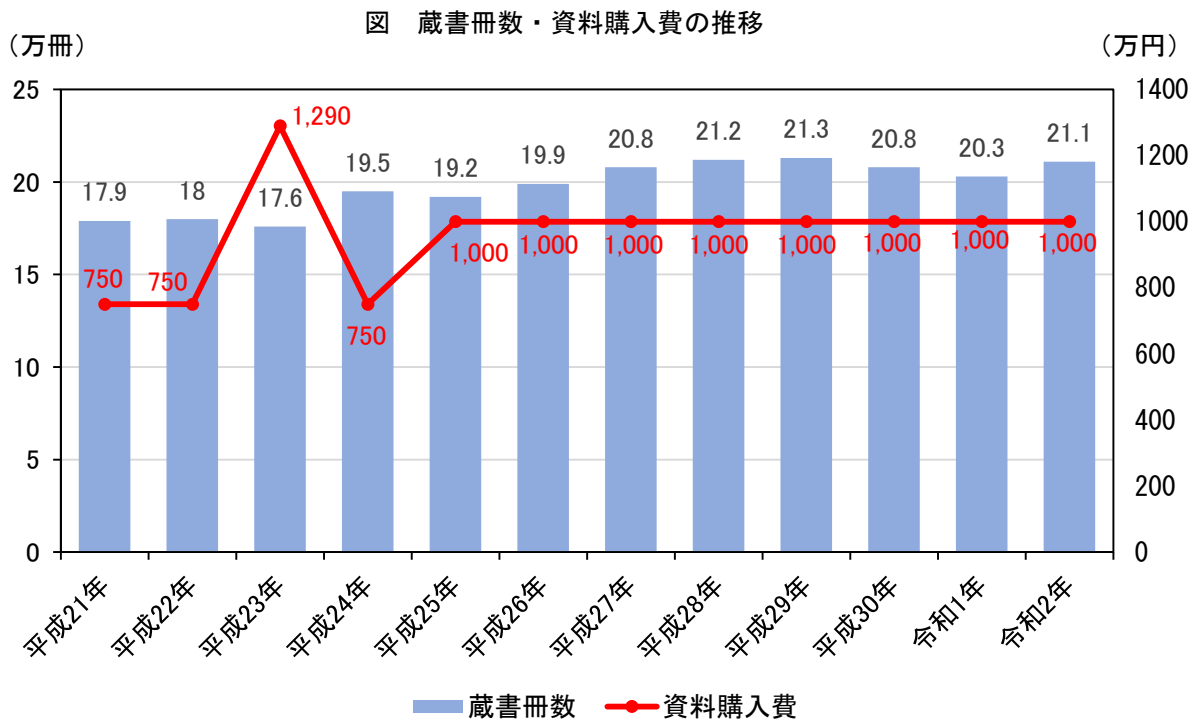
2. 統計

(1) 蔵書

- ・ 蔵書冊数は 20 万冊程度で推移
- ・ 蔵書は一般書や児童書を中心に、郷土資料も多く収蔵

①蔵書冊数・資料購入費の推移

蔵書冊数や資料購入費は近年横ばいで推移しています。



[資料：豊見城市立中央図書館報 第5号、第6号、第7号をもとに作成]

②年間図書館資料購入冊数

資料収集方針に基づく資料収集を実施しており、図書の種類は年度によりややばらつきがあります。

表 年間図書館資料購入冊数 (令和元年度)

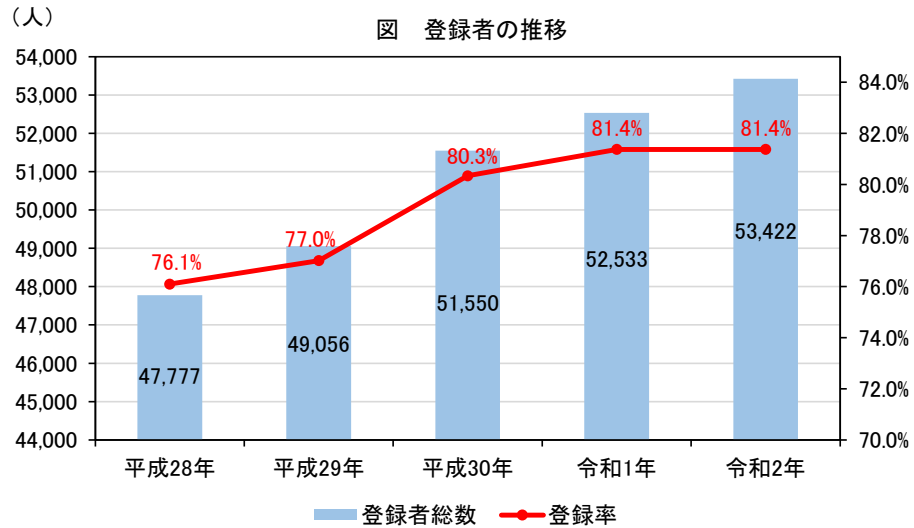
年度	児童			一般	暮らし	YA	郷土	参考図書	視聴覚		雑誌	合計 (冊・点)
	紙芝居	絵本	児童書						CD	DVD		
平成30年	19	629	1,136	1,824	875	615	394		60	11	2,208	7,771
令和1年	22	598	644	1,475	798	750	232	102	76	87	1,997	6,781
令和2年	29	571	809	1,455	615	643	248	59	61	32	1,999	6,521

[資料：豊見城市立中央図書館報 第7号]

(2) 登録者

- ・登録者・登録率は増加傾向にある
- ・地域別の登録率では、図書館周辺の地域が高い
- ・登録者は女性や子育て世代が多い

登録者や登録率は年々増加傾向にあります。

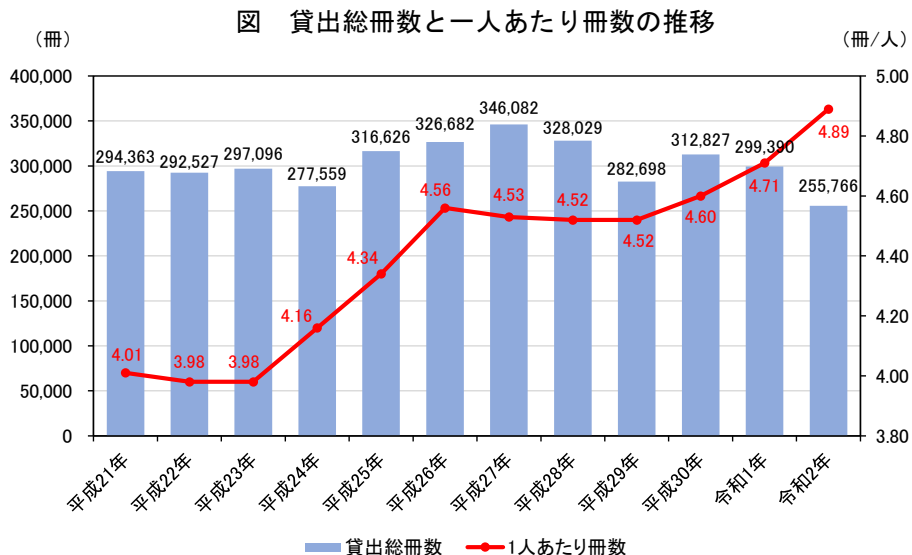


[資料：豊見城市立中央図書館報 第7号をもとに作成]

(3) 貸出サービス

- ・貸出総冊数は減少傾向、1人あたりの貸出冊数はやや増加傾向
- ・月別では夏休みにあたる7・8月が多い
- ・時間帯別では11時と16時にピークを迎え、曜日別では土曜・日曜が多い

令和2年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大による影響もありますが、貸出総冊数は減少傾向にあります。一方で、一人あたりの貸出冊数は増加傾向にあります。



[資料：豊見城市立中央図書館報 第7号をもとに作成]

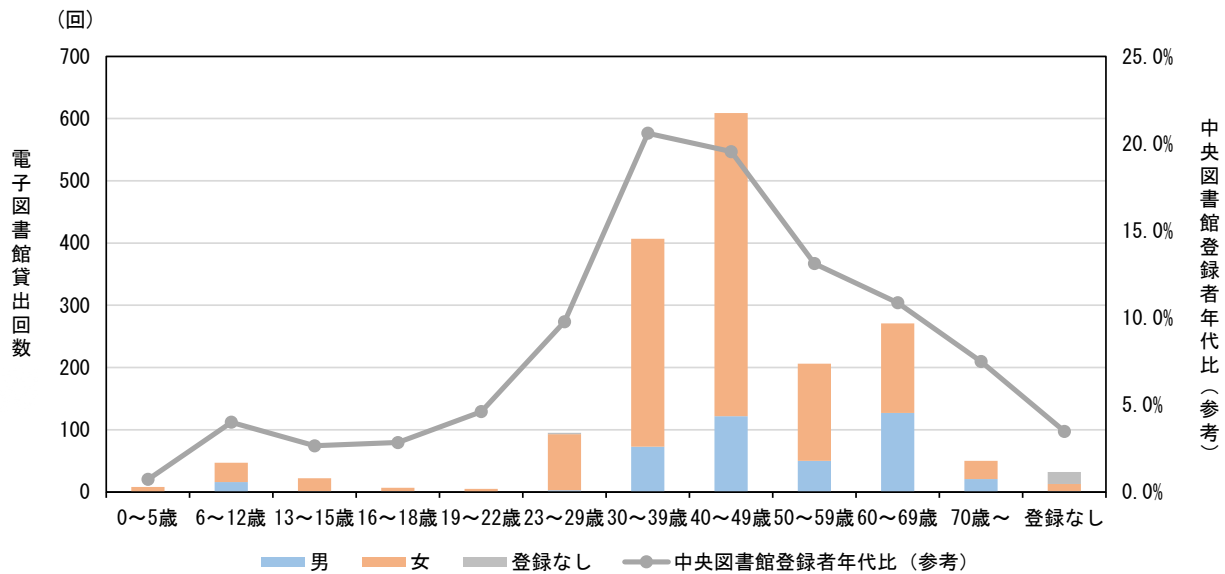
(4) 電子図書館の利用状況

- ・ 電子図書館サービスを令和2年12月より開始（令和3年3月本格稼働）
- ・ 利用者は女性の30～40代が多い

電子図書館の利用者は女性の30～40歳代の方が多くなっています。中央図書館の登録者年代比と比較すると、概ね中央図書館の登録者と比例して電子図書館の利用者が多くなっていますが、若年層や老年層は中央図書館の登録者と比較してやや利用が少ない状況です。

図表 年代・男女別貸出回数（12月25日～3月31日）

年代 性別	0～ 5歳	6～ 12歳	13～ 15歳	16～ 18歳	19～ 22歳	23～ 29歳	30～ 39歳	40～ 49歳	50～ 59歳	60～ 69歳	70～ 79歳	不明	合計
男	0	16	1	1	0	3	73	122	50	127	21	1	415
女	8	31	21	6	5	90	334	487	156	144	29	12	1,323
登録 なし	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	19	21
合計	8	47	22	7	5	95	407	609	206	271	50	32	1,759



[資料：豊見城市立中央図書館報 第7号]

(5) 図書館行事等の状況

- ・ 子供向けの「おはなし会」等を通年で開催。その他のイベントも多数開催
- ・ この他、ブックトークなどの取り組みを実施

中央図書館では、以下のような様々なイベント・事業を実施しています（令和2年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止から一部のイベントを中止、参加人数の制限を実施）。

【図書館行事（通年）】

イベント・事業	概要	実施状況	
		令和元年度	令和2年度
おはなし会	毎月第2土曜日、第4日曜日に「おはなし会」として、ボランティアや図書館司書による読み聞かせを実施	22回実施 大人147名、 子供276名参加	10回実施 大人54名、 子供147名参加
上映会	子供向け・大人向けの映画の上映会を実施	10回実施 大人293名、 子供242名参加	8回実施 大人48名、 子供53名参加
おひざにだっこ	毎月第4木曜日に「おひざにだっこ」として、赤ちゃんのためのお話しや手遊び、わらべ歌などを実施	11回実施 大人142名、 子供137名参加	7回実施 大人21名、 子供43名参加
リサイクル本の譲渡会	受入できなかった寄贈本や保存期限の切れた資料等を市民に提供	2回実施 譲渡数 3,270	3回実施 譲渡数 2,856

【図書館行事（抜粋）】

イベント・事業	概要	実施状況	
		令和元年度	令和2年度
図書館講演会	講師による文学に関する講演会を開催	1回開催 28名参加	—
発信する図書館	地域活性化につながる取り組みとして、地域産業に関する講演会を開催	1回開催 18名参加	1回開催 9名参加
生涯学習フェスティバル	ボランティアによる絵本の読み聞かせや図書館行事報告を実施	1回開催 大人60名、 子供106名参加	中止
ブックトーク	市内の小中学校に司書が出向き、図書の紹介（ブックトーク）を実施。併せて、図書の団体貸出も実施	派遣10校 参加1131人	派遣7校 参加1107人
小学生の図書館見学	図書館に親しみをもってもらうため市内の小学校2年生を対象に図書館の見学を実施	参加8校	参加2校

上記のほか、慰霊の日関連行事や読書週間など様々なイベントを実施

【その他の取り組み】

取り組み	概要	実施状況 (令和2年度)
雑誌スポンサー制度	雑誌購入費用の削減や雑誌コーナーの充実などを目的に、スポンサーとなる事業所に雑誌購入費用を負担していただき提供雑誌の最新号のカバーに、スポンサー名と広告を掲載する制度	参加5社 提供10誌

2-4 学校図書館の状況

1. 学校図書館の概要

市内には小学校が8校、中学校が3校あり、それぞれの学校図書館の概要は以下のとおりです。

図 小中学校と中央図書館の位置



[資料：国土地理院地図]

表 小中学校ごとの蔵書数・職員数

学校名	児童・生徒数		蔵書数		1人あたり蔵書数		蔵書の基準 ^{※1}		
	H25	H29	H25	H29	H25	H29	基準値	達成	
小学校	上田	1,206	722	14,607	10,729	12	15	12,560	
	長嶺	541	526	11,031	11,462	20	22	11,160	達成
	座安	412	424	10,683	10,850	26	26	10,560	達成
	豊見城	476	548	9,860	8,110	21	15	11,360	
	伊良波	594	667	10,421	10,284	18	15	11,960	
	とよみ	702	681	13,839	13,213	20	19	11,960	達成
	豊崎	655	866	9,282	12,043	14	14	13,000	
	ゆたか	—	598	—	8,035	—	13	11,360	
中学校	豊見城	780	805	10,994	11,837	23	22	15,840	
	長嶺	603	580	14,964	14,700	25	25	14,240	達成
	伊良波	708	756	14,357	12,956	20	17	15,520	

※1…「学校図書館図書標準（文部科学省平成5年3月）」に定められる学級数に応じた整備すべき蔵書の標準

※各学校1名ずつ専任の職員を配置

[資料：(児童・生徒数) 統計とみぐすく平成29年度版 (蔵書数他) 各学校提供資料]

2. 中央図書館との連携

中央図書館と市内小中学校の学校図書館はそれぞれ連携し、以下のような取り組みを行っています（令和2年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止からブックトークの中止等あり）。

表 学校図書館への図書館資料貸出

学校名	貸出数		
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
上田小学校	107	90	48
長嶺小学校	216	315	46
座安小学校	0	52	1
豊見城小学校	201	211	0
伊良波小学校	150	80	0
とよみ小学校	52	124	15
豊崎小学校	106	46	22
ゆたか小学校	412	334	19
豊見城中学校	0	100	0
長嶺中学校	0	37	0
伊良波中学校	157	57	0
合計	1,401	1,446	151

※通常の団体貸出のほか、ブックトーク時の貸出含む。

[資料：豊見城市立中央図書館報 第7号]

表 ブックトーク派遣事業（令和2年度）

実施日	学校	実施対象	派遣職員数
8/25・26（火・水）	豊崎小学校	3年生4クラス135名	3人
9/1・8（火・水）	上田小学校	3年生4クラス119名	3人
9/15・16・18（火・水・金）	豊見城中学校	2年生7クラス277名	3人
10/20・21（火・水）	ゆたか小学校	3年生4クラス114名	3人
10/27・28（火・水）	伊良波中学校	1年生4クラス151名	3人
10/29（木）	豊見城小学校	3年生3クラス109名	3人
11/4（水）	とよみ小学校	3年生3クラス102名	3人
合計		29クラス（1,007名）	21人

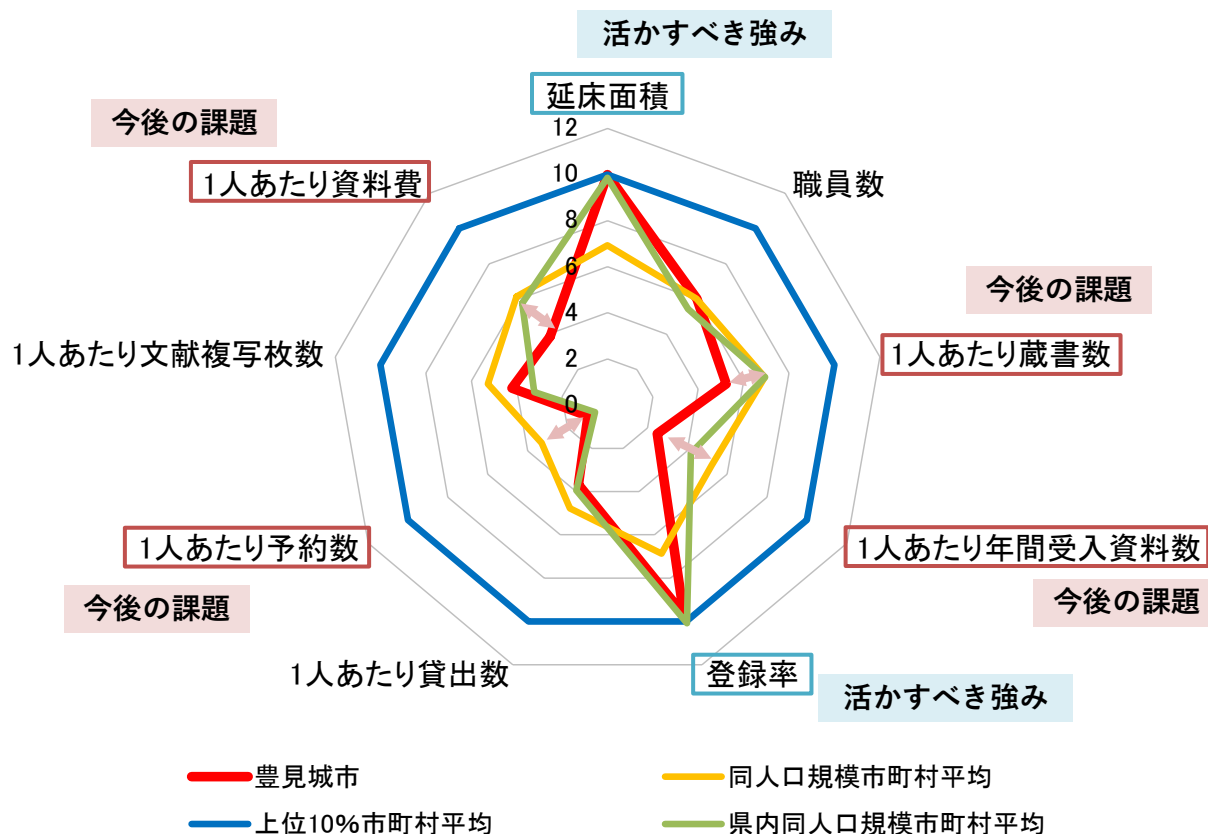
[資料：豊見城市立中央図書館報 第7号]

2-5 図書館に関する他市町村（同規模）との比較

豊見城市は図書館の面積や登録率が非常に高く活かすべき強みです。一方で、蔵書数や年間受入資料数、予約数、資料費は同規模市町村と比較しても低く、今後の課題です。その他の職員数や貸出数、文献複写枚数は平均的ですが、全国上位10%市町村とは大きな差があります。

沖縄県内でみると、同規模市町村である名護市及び糸満市と比較すると、蔵書数や年間受入資料数、資料費が低く、全国と比較したときと同様に今後の課題です。

図 全国上位10%市町村を10としたときの各項目の数値



※他市町村との比較について

中央図書館の強みや弱みを把握するため、県内・全国の人口が同規模の市町村や「これからの図書館の在り方検討協力者会議」報告書にある目標基準例との比較を実施。比較対象は以下のとおり。

- ① 沖縄県内で人口規模が同等（人口6万人以上8万人未満）である市町村（糸満市・名護市）
- ② 全国で人口規模が同等の市町村
- ③ 「これからの図書館の在り方検討協力者会議」報告書の目標基準例に基づき、人口規模が同等の市町村で貸出密度（住民一人あたりの貸出資料数）が上位10%の市町村

2-6 市民アンケート

1. 調査概要

豊見城市図書館基本計画策定にあたり住民意向把握を行うため、アンケート調査を実施しました。

表 アンケート調査の概要

調査概要	市民・利用者アンケート	
	調査方法	18歳以上の市民から無作為抽出し郵送、図書館での配布
	調査期間	令和3年3月
	配布数	3000通（郵送配布）、400通（図書館での配布）
	回収数	871人（郵送回収数：575人、インターネット回答数：296人）
	小中学生アンケート	
	調査方法	各学校で直接配布
	調査期間	令和3年3月
	配布数	各小学校5年生：835通 各中学校2年生：739通
	回収数	小学校：591人（直接回収数：413人、インターネット回答数：178人） 中学校：517人（直接回収数：260人、インターネット回答数：257人）

2. 結果概要

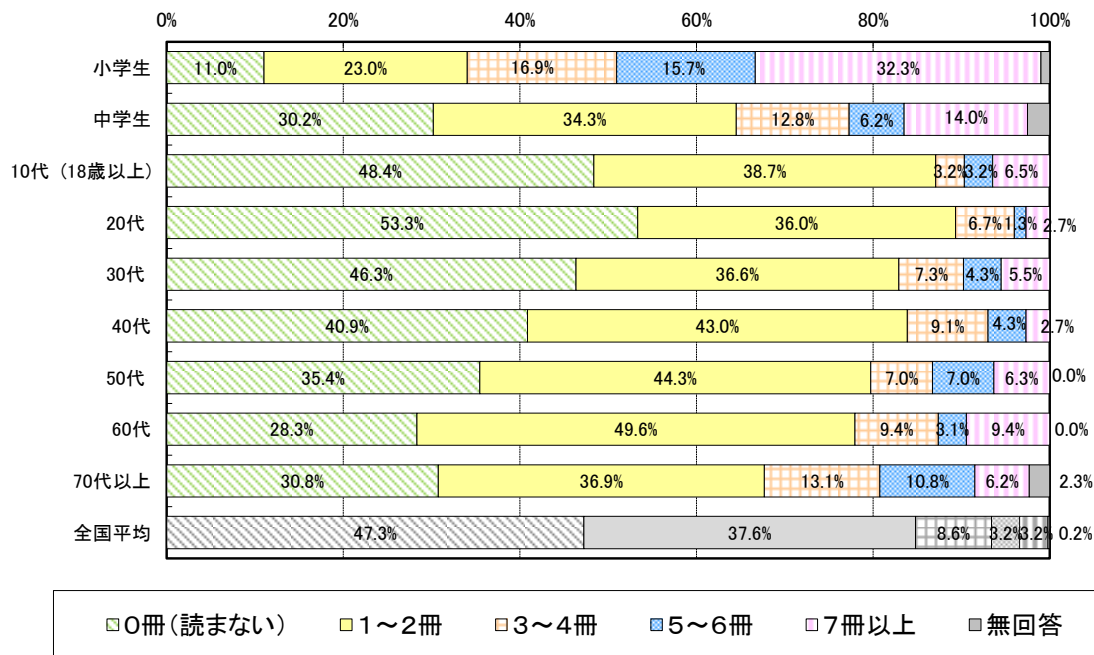
(1) 1ヶ月の読書量

- ・1ヶ月の読書量は10・20代が最も少なく、年齢があがるにつれ多くなっている
- ・小中学生は比較的多く、小学生の1ヶ月の読書冊数は7冊が一番多くなっている。
- 一方で、不読者の割合は全国平均より高い

1ヶ月の読書量は小学生が最も多く、次いで中学生が多くなっています。18歳以上の市民では、10代の読書量が少なく、年齢があがるにつれ多くなっています。

一方で、小学生・中学生の不読者の割合（1ヶ月間で1冊も本を読まなかった人）は、全国平均より高い状況です。

図 1ヶ月の読書量



※グラフ中の全国平均は16歳以上の全国の男女1960人の平均値

[資料：平成30年度「国語に関する世論調査」(文化庁)]

＜全国の小中学生の不読者の割合＞

小学生：6.8% 中学生：12.5%

[※資料：第65回学校読書調査(2019年、全国学校図書館協議会・毎日新聞社)]

(2) 中央図書館の利用有無・頻度

・ 18歳以上の市民では7割以上が一度は利用
 ・ 小中学生も8割以上が一度は利用

18歳以上の市民では、約76%の市民が一度は利用したことがあると答えています。一方で、利用頻度は数年に1回が約32%で最も多く、利用頻度は必ずしも高くありません。なお、利用頻度は年代があがるにつれ高くなっています。

小中学生では、小学生の約81%、中学生の約85%が一度は利用しており、利用頻度は小学生は1年に数回、中学生は数年に1回が最も多くなっています。

図 中央図書館の利用有無と頻度（18歳以上の市民）

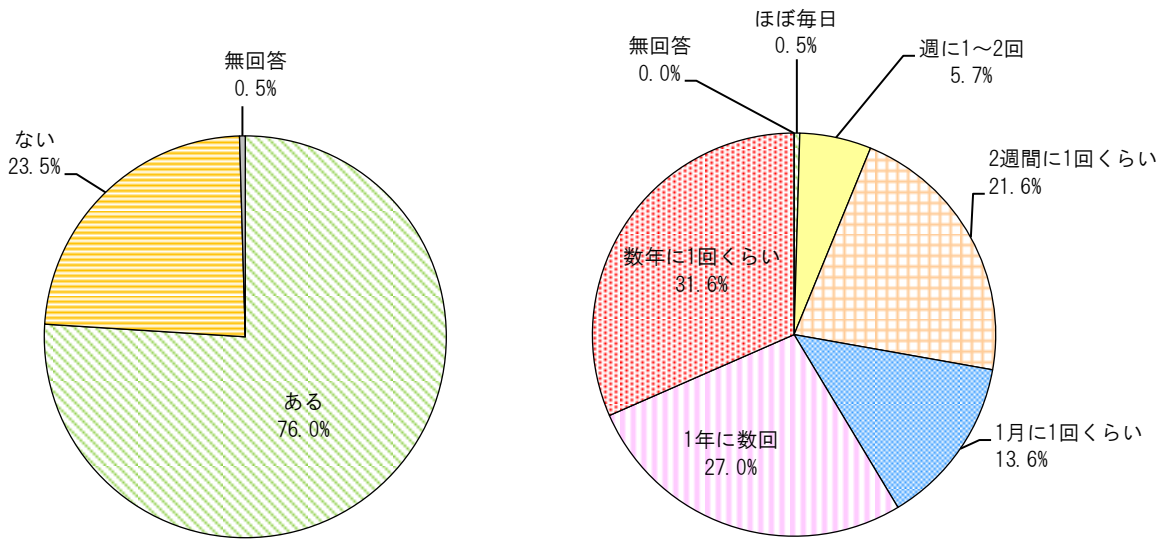


図 年代別中央図書館の利用頻度（18歳以上の市民）

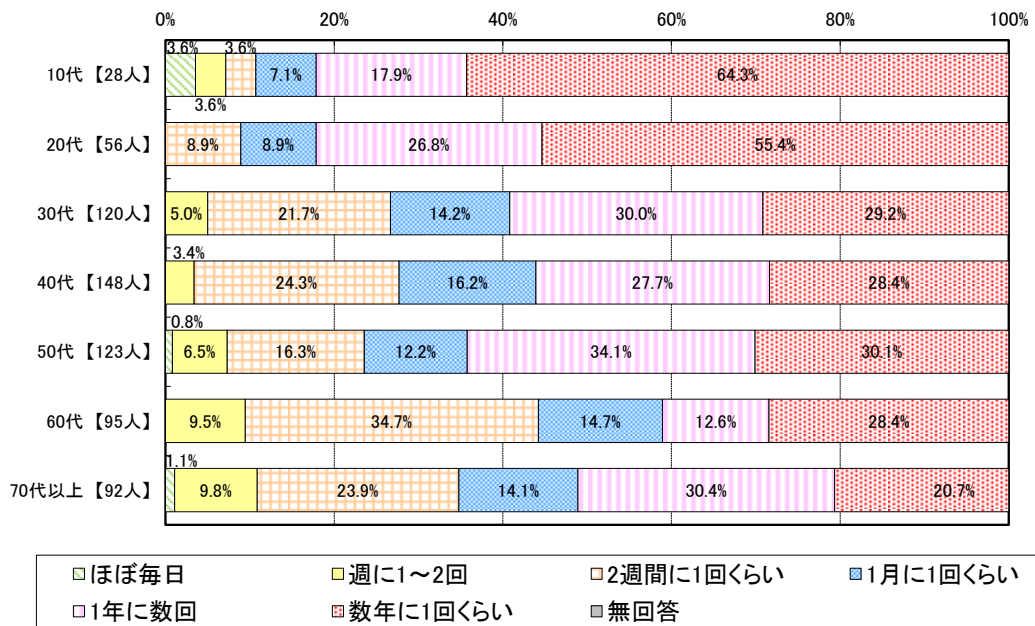


図 中央図書館の利用有無と頻度（小学生）

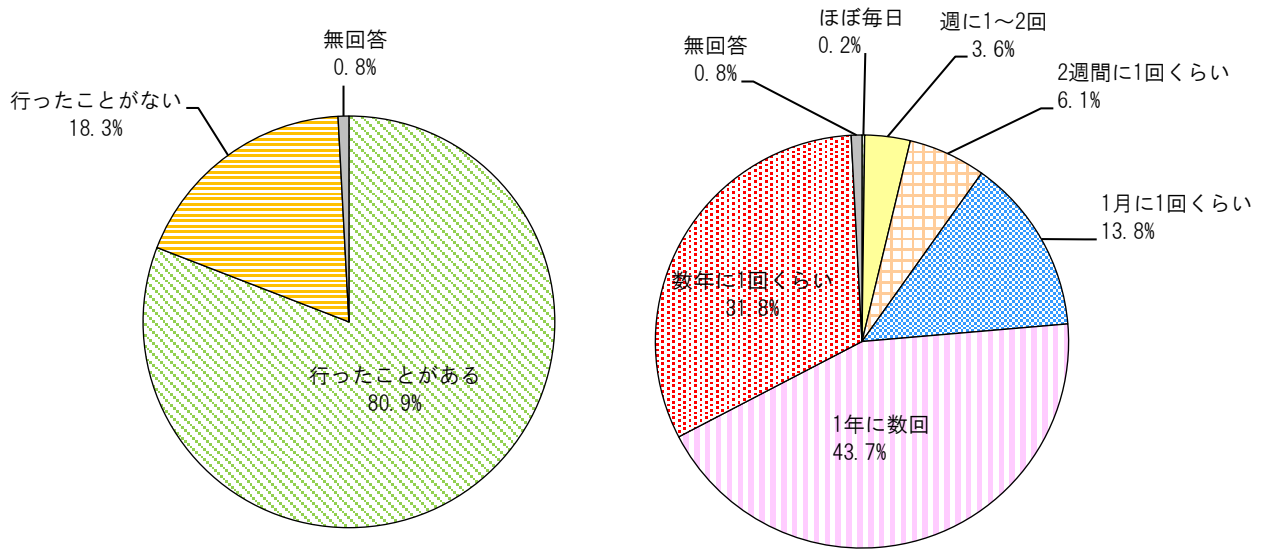
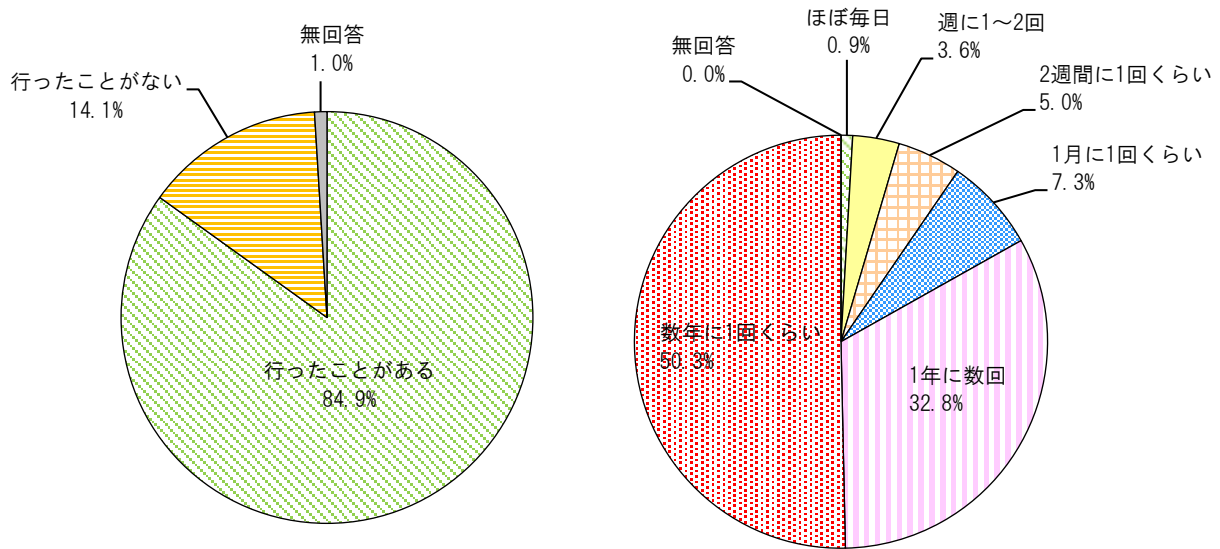


図 中央図書館の利用有無と頻度（中学生）



(3) 中央図書館の満足度

- ・ 全ての項目で令和元年度に比べ平均値（満足指数）が高い
- ・ 比較的満足度が低い項目として「本の充実」「図書館への移動のしやすさ」「情報提供の充実」が挙げられる

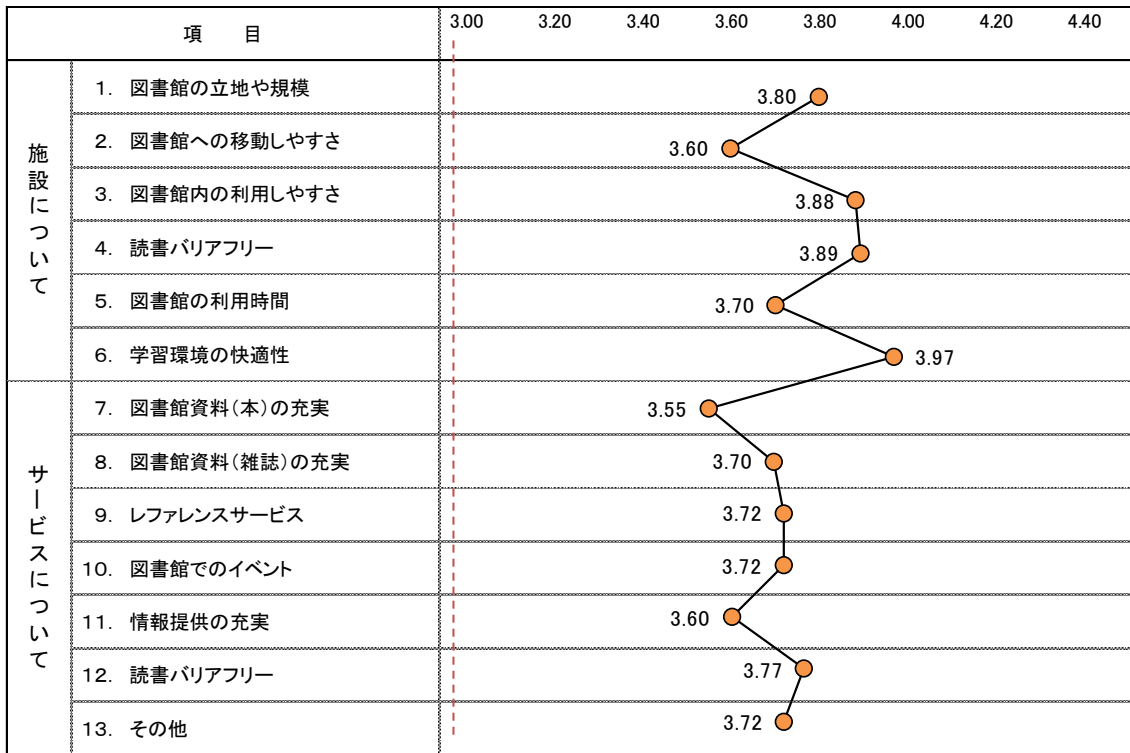
中央図書館の項目別満足度を指数で評価したところ、全ての項目で令和元年度に比べ平均値が高くなっています。特に『学習環境の快適性』、『読書バリアフリー(施設)』、『図書館内の利用しやすさ』など、施設についての項目で平均値(満足指数)が高くなっています。

平均値(満足指数)が低い項目は、『図書館資料(本)の充実』、『図書館への移動しやすさ』、『情報提供の充実』となっており、今後の課題といえます。

※平均値は、満足…5、まあ満足…4、令和元年度…3、やや不満…2、不満…1として加重平均により算出。

※この設問は、令和元年度と比較し、満足か不満かを調査。令和元年度と同等であれば「3」と回答

図 中央図書館の項目別の満足度（18歳以上の市民）



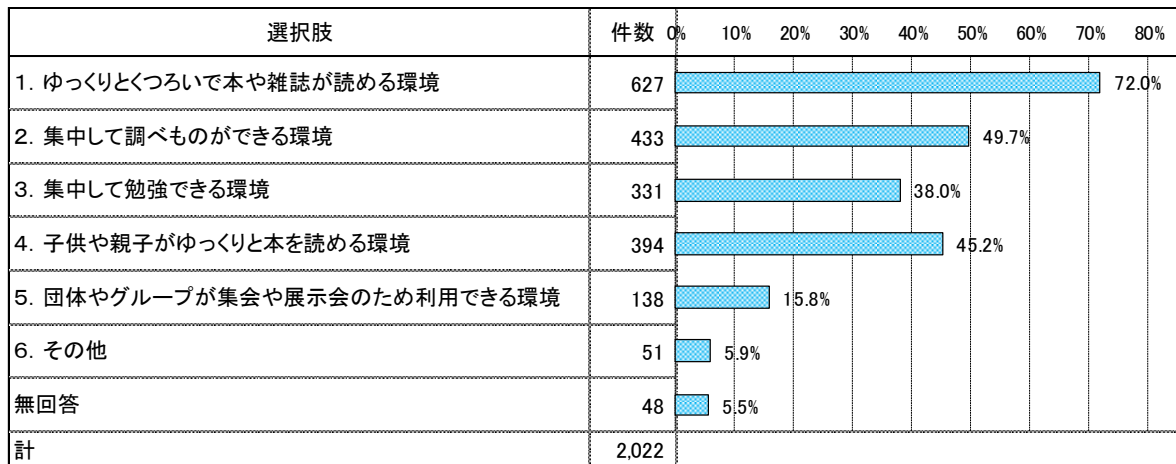
(4) 中央図書館への要望

・中央図書館への要望として、環境面では「ゆっくりとくつろいで本や雑誌を読める環境」、設備面では「インターネット設備 (Wi-Fi など) の充実」が多い

中央図書館への要望について、環境面では、「ゆっくりとくつろいで本や雑誌が読める環境」が72.0%で最も多く、次いで「集中して調べものができる環境」49.7%、「子供や親子がゆっくりと本を読める環境」45.2%となっています。

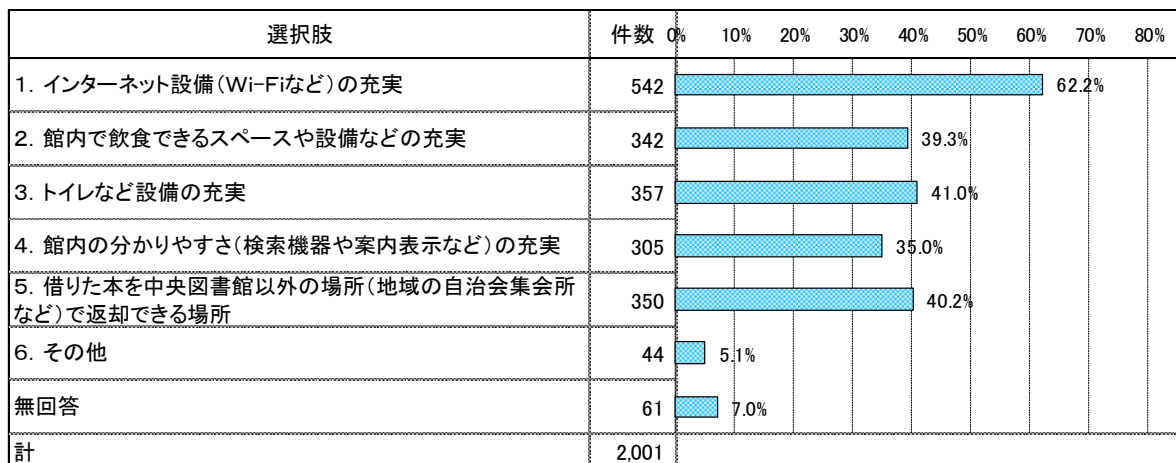
設備面では、「インターネット設備 (Wi-Fi など) の充実」が62.2%で最も多く、次いで「トイレなど設備の充実」41.0%、「借りた本を中央図書館以外の場所 (地域の自治会集会所など) で返却できる場所」40.2%となっています。

図 中央図書館への要望【環境面】(18歳以上の市民)



集計母数871名

図 中央図書館への要望【設備面】(18歳以上の市民)



集計母数871名

第3章 図書館行政における課題

3-1 図書館行政における課題

これまでの現状整理や市民意向を踏まえ、図書館行政における課題を整理します。課題の整理にあたっては、「図書館の設置及び運営上望ましい基準」にあわせ、設置、施設・運営、図書館資料、サービス、職員の各項目について、上位関連計画の内容、本市の現状や中央図書館の現状、市民意向を踏まえ、整理を行います。

<項目ごとの課題>

項目	課題
設置	<p>①図書館や資料へのアクセス性の向上が課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状では公共交通等により概ね市域全域のサービス網が形成されています ・一方で、市民からはアクセス性の悪さから分館や移動図書館、公共交通によるアクセス性の向上に関する意見がみられます ・また、今後は人口の増加や高齢化が想定され、需要の増加や多様化、アクセスが難しい利用者の発生も考えられます ・電子図書館の整備により、インターネット環境さえあれば誰もが図書を閲覧しやすい環境が整備されましたが、市民の認知度の向上や利用促進、書籍の拡充が今後の課題です
施設・運営	<p>②今後も計画的な運営を維持していくことが課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業計画の策定や公表、評価により計画的な運営が行われています <p>③市民ニーズを踏まえた開館日・時間の検討が課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開館日や開館時間は県内市町村立図書館としては平均的ですが、市民からは開館時間の延長や開館日（特に祝日）の増加に関する意見が多くなっています
	<p>④引き続き資質の向上が課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員数は一定数を確保しているといえます ・市民からは好意的な意見と不満な意見の両方の意見が出ています ・ボランティアによる読み聞かせなど、市民が図書館に関わる運営が行われています
	<p>⑤多様化する市民のニーズを踏まえた図書館づくりが課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・床面積は他都市と比較しても高く、中央図書館の強みです。ただし、現状余剰スペースはほとんどない状況です。 ・本棚を高く積み、蔵書数を増やすのではなく、ゆとりある空間を形成しています ・配慮が必要な方について、スロープの設置など施設は対応済みであり、点字図書や大活字本等も用意しています。ただし、これらの認知度は低い状況です ・玄関からすぐの位置の児童コーナーやお話し会、ヤングアダルトコーナーの設置など、子供や青少年にとって利用しやすい環境を整備しています ・市民からは、ゆっくりとくつろいで本を読める環境、飲食機能の設置、学習環境の向上に関する意見がみられます ・図書館利用の目的は「貸出」「閲覧」以外では「子供のつきそい」「勉強」が多くなっています ・中央図書館以外をよく利用する理由として、居心地、雰囲気がいいが挙げられています

項目		課題
図書館資料 (資料収集)		<p>⑥市民のニーズや図書館の環境を踏まえた資料収集が課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・蔵書数は比較的少なく、利用者からも図書の充実に関する意見は多くなっています。ただし、現在の中央図書館の環境を踏まえると蔵書の増加は限界があります ・中央図書館以外をよく利用する理由として、図書の充実が挙げられています ・専門書を含め、多様な書籍が充実している県立図書館とほど近く、相互貸借、遠隔地返却等のサービスを実施しています ・収集している図書については、地域性を踏まえた、資料収集方針が定められており、市民の細かい要望についてはリクエスト制度で対応を行っています。また、障害者等へ配慮したアクセシブルな図書も用意しています
サービス	貸出・レファレンス等	<p>⑦図書館利用の推進、貸出サービスの向上が課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貸出数は全国平均より少なく、貸出サービスに関して相対的に利用率は低い状況です ・公共図書館の貸し借りそのものが面倒との意見が多く、また、利便性向上に関する要望（自動化や返却場所、効率化など）が多くなっています
	生涯学習	<p>⑧市民ニーズを踏まえた生涯学習の推進が課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習に対する社会的ニーズが向上しており、市全体としても生涯学習の推進が求められています ・お話し会をはじめとする多様なイベントを開催し、多くの方が参加しています。一方で、市民全体としては各種イベントの認知度が低い状況です ・市民からは多様なイベントの開催が求められています
その他	読書活動	<p>⑨読書や図書館に興味をもってもらう取り組みが課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通年で読み聞かせ等のイベントを開催し、幼児期から本と触れ合う場を提供していますが、比較的本を読まない子供が多い状況です ・市全体としても子供の読書を推進しており、子供の読書率向上に向けた取り組みが求められています ・若年層についても不読率や図書館の利用頻度が低いです
	その他	<p>⑩図書館の利用につながるような効果的な情報発信が課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館を利用したことがない人、ほとんど利用していない人が一定数いる状況です

第4章 豊見城市の図書館の将来像

現状と課題を踏まえ、豊見城市の図書館の将来像と基本方針を以下のとおり示します。

4-1 将来像

本市の図書館は中央図書館を中心に、学校図書館とも連携を図りながら運営が行われています。

中央図書館は開館後、本をはじめとする資料の提供や市民の学習の支援、本市の文化の発展に努め、現在では、多くの市民の皆さまにご利用いただき、高い満足度を得ています。

一方で、開館以降、本市の人口増加やICTの進展、新型コロナウイルス感染症感染拡大による生活の変化をはじめとする社会的な変化、多様な資料収集や生涯学習などの市民ニーズの変化、電子図書館の整備などの環境の変化など様々な変化が生まれています。

また、本市の小中学生の不読率は比較的高いほか、10～20代の約半数は本を読んでいないなど、特に子供たちや若年層に本に興味をもってもらい読書を推進することが求められています。

このような状況を踏まえ、子供たちの問題解決能力の育成など、今後は市民と図書館が共に成長し、本市の文化の発展に寄与するような図書館を目指し、将来像を『市民に愛される図書館～市民とともに成長し、豊見城の文化を創り・育む図書館～』とします。

本市の象徴的フレーズ(普遍的なフレーズ)

とよ

響むまち・豊見城

本市のまちづくりのテーマ (将来像)

Welcome な思いで、ハートがつながり みんなで彩るまち とみぐすく

※第5次豊見城市総合計画より

市民に愛される図書館

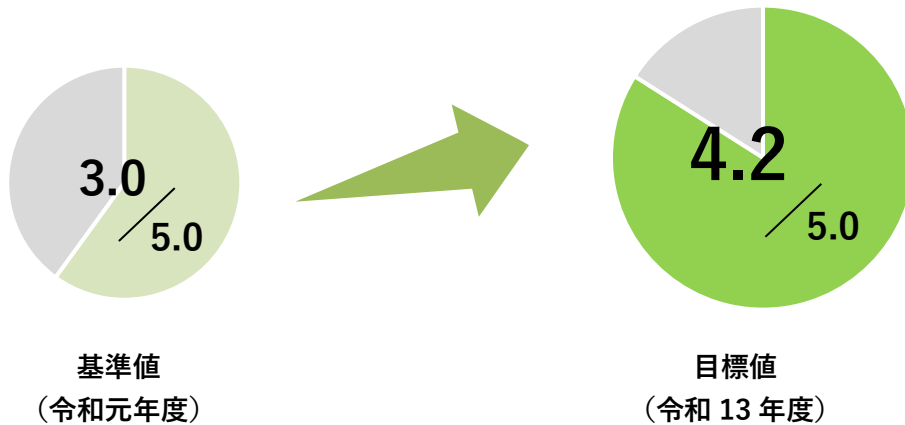
～市民とともに成長し、豊見城の文化を創り・育む図書館～

■本計画の目標指標

将来像に掲げた『市民に愛される図書館～市民とともに成長し、豊見城の文化を創り・育む図書館～』を目に見える形で測定するため、10年後の数値目標を以下のとおり設定しました。

この数値目標は10年後に市民アンケート等で、その進捗の確認を行います。この指標実現に向けて、P33以降に示す「重点施策」を中心に、様々な施策を推進します。

「中央図書館における利用満足度」



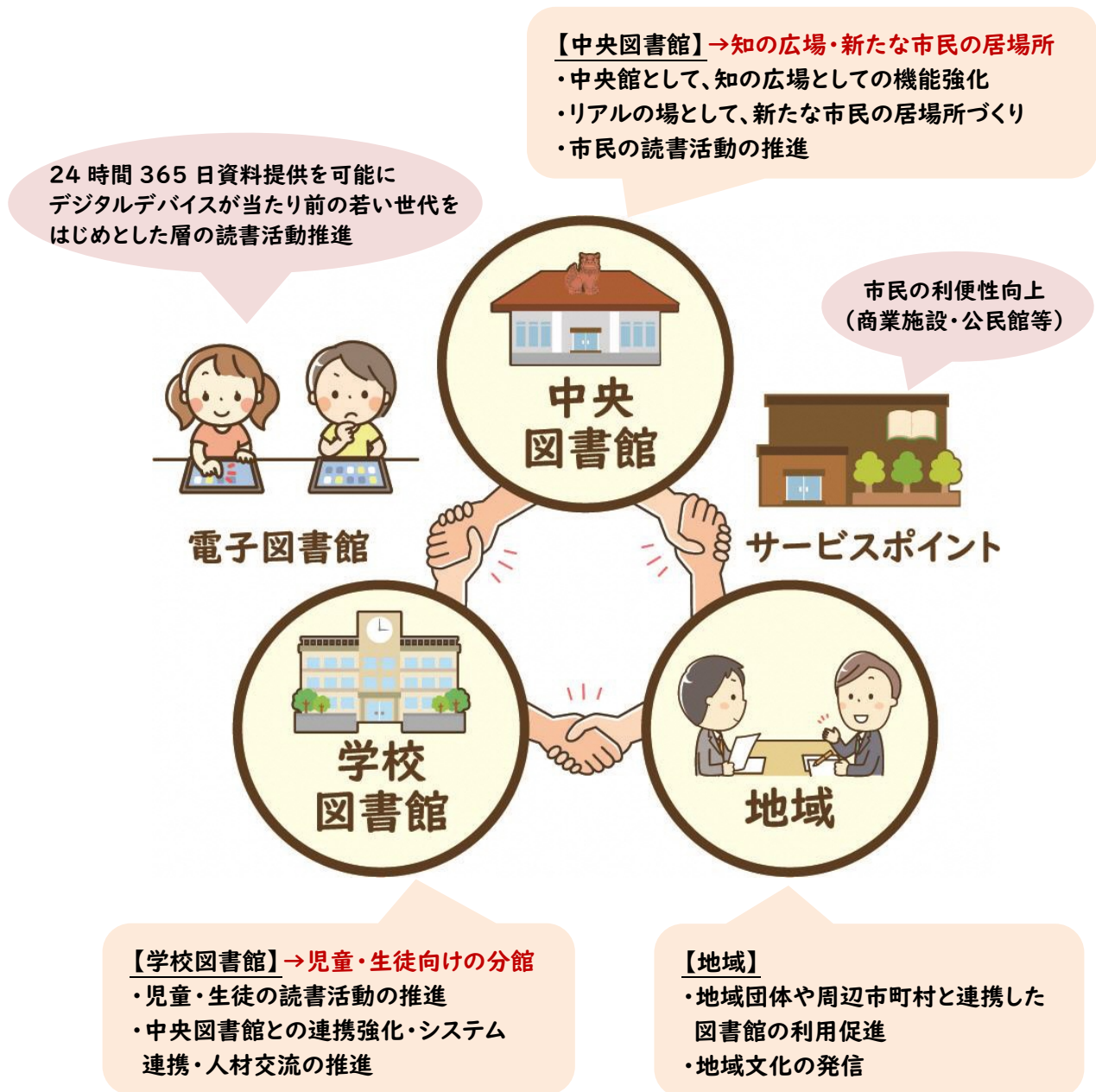
「中央図書館における利用満足度」の算出
市民アンケートにおいて、中央図書館における利用満足度を5段階評価で調査し、算出

■豊見城市の図書館ネットワークのイメージ

将来像に掲げた『市民に愛される図書館～市民とともに成長し、豊見城の文化を創り・育む図書館～』及び数値目標『令和13年度の市民満足度4.2』の実現に向け、本市の図書館の将来ネットワークイメージを以下に示します。

今後は、この将来ネットワークイメージを念頭に置き、様々な施策を推進します。

<図書館ネットワークのイメージ>



豊見城市図書館の蔵書数 (目標)

40万冊 (現在：約33.5万冊)

4 - 2 基本方針

1. 基本方針

将来像を踏まえ、具体的な施策の方向性となる基本方針を以下のとおり示します。

1. 読書の「楽しさ・感動を伝える」図書館

市民アンケートにおける豊見城市立中央図書館の満足度は概ね高い傾向にあります。しかし、貸出総冊数は平成 27 年をピークに減少傾向であることや小中学生の不読率が比較的高く、10~20 代の約半数が本を読んでいないなど、図書館や本への関りが低くなっています。そのため、利用者が読みたいと思う・読んでよかったと思える本に、気軽に出会い、読書の楽しみを実感できる図書館づくりを進めます。また、小さな頃から本や読書に親しみを持ち、大人になっても親しみ続けられるような取り組みを進めます。

2. 「知の広場」としての図書館

図書館は、本の提供に加え、利用者の生涯にわたっての学習を支援し、地域の情報拠点としての役割を果たすことが求められます。そのため、様々な利用者の多様なニーズに応えた蔵書やサービス提供はもちろん、生活やビジネスに関する課題解決の支援、学習した成果の発表の支援など、利用者の生涯学習を支える図書館づくりを進めます。また、地域・行政資料の収集・保管等を進め、豊見城の地域・文化・情報の拠点となるような図書館づくりを進めます。

3. 「居場所」としての図書館

図書館の利用目的は人によりそれぞれで、「読書」「本の貸し借り」「勉強」「研究」「交流」「余暇」など多くの人が多様な目的で図書館を利用しています。コロナ禍で図書館は閉館や開館時間の短縮をよぎなくされましたが、その中で、多くの人が多様な目的で利用する図書館の「居場所」としての重要性が改めて認識されました。そのため、従来の「読書」や「本の貸し借り」はもちろん、それだけにとどまらない市民の「居場所」となる図書館を目指します。また、そのために従来の図書館の概念にとらわれない柔軟な発想や取り組みを大切にします。

4. 「ともに創る」図書館

上記3つの方針の実現に向けては、行政の取り組みだけでなく、図書館の計画・運営に市民が関わり、市民と図書館が共に成長していくことが重要です。そのため、今後の図書館の取り組みや運営にあたっては市民参画を念頭に置き、また、地域団体とも連携しながら、市民とともにこれらの方針の実現を目指します。

4-3 重点施策

将来像や基本方針を踏まえ、本計画期間中に取り組むべき、重点施策を以下のとおり示します。

1. 基本方針1「読書の楽しさ・感動を伝える」図書館に向けた重点施策

重点施策 各世代に対応した市民の読書活動の支援・推進

市民の皆さんの誰もが気軽に本や資料にアクセスでき、楽しむことができる環境づくりに取り組みます。また、不読率が全国に対して高い小中学生や読書量の少ない大学生から20・30代の若い世代、今後の増加が想定される高齢者世代、読書に支援が必要な方、それぞれに対応した読書活動の支援・推進に取り組みます。このうち、小中学生に対しては読書を支える基盤として学校図書館を中央図書館の分館とする図書館ネットワークの構築に取り組みます。

<具体施策に求められるキーワード>

- ・ 乳幼児に対する読書のきっかけづくり
- ・ 小学生に対する読書への親しみづくり
- ・ 読書を通じた中学生・高校生に対する生きる力の育成
- ・ 若い世代が気軽に本を読むことのできる環境づくり
- ・ 高齢者や障害者が気兼ねなく、また、不自由なく読書できる環境づくり
- ・ 新たな図書館ネットワークの構築 (P31 参照)

<具体施策(例)>

赤ちゃん優先時間の設定

➤課題：5・8に対応

小さな子供を連れた方も気兼ねなく図書館を利用できるように、赤ちゃん優先の時間を曜日と時間で定めて、利用者への周知、おもちゃの設置、読み聞かせの実施などを行う

本好きな子供の活動支援

➤課題：5・8・9に対応

子供の読書活動の支援、子供同士の交流を推進するため、参加者を募り、仕事体験やおすすめの本の選書、発表会などを行う

ヤングアダルト向けの読書のきっかけづくり

➤課題：5・8・9・10に対応

同世代からのアプローチにより読書を推進するため、市内高校生により、おすすめの本の選書とそのPOPを作成し、学校図書館等で展示し、読書のきっかけをつくる

学校図書館との連携

➤課題：5・6・7・9・10に対応

子供が毎日通う学校で市立図書館の本が借りられるよう、市立図書館と学校図書館のシステムの連携、貸出カードの統一、配送網の整備により連携を強化する

高齢者等への読書活動支援

➤課題：5・6・7・8に対応

高齢者とその家族向けに正確な情報提供や高齢者同士の交流促進のため、市地域包括支援センターや高齢者介護施設と連携し、認知症カフェや移動文庫を実施する

<具体施策(例)の詳細>

事例1-1 赤ちゃんタイムの設定

新潟市立中央図書館(新潟県)

<ねらい>

- ・図書館は静かな場所というイメージがあるため、小さな子どもを連れた保護者が周囲の迷惑になると考え、図書館の利用を躊躇する傾向がある。小さな子どもを連れた方でも気兼ねなく図書館を利用できるように、曜日と時間を設けて、図書館を利用しやすくする

<取り組みの概要>

- ・週2日(火・木)の午前10時～午後1時を「赤ちゃんタイム」として設定
- ・おもちゃの設置や赤ちゃんの水分補給など、小さな子どもを連れた方でも気兼ねなく図書館を利用してもらえる環境づくりをし、利用者への周知や理解をはかる
- ・赤ちゃんタイムにあわせて、乳幼児向けの絵本の読み聞かせやわらべうた等を実施

出典:図書館実践事例集～地域の要望や社会の要請に応えるために～(令和2年3月、文部科学省)

事例1-2 こども司書くらぶ

福井市立図書館(福井県)

<ねらい>

- ・子どもが良書に出会い、評価する力を身につけること
- ・学校の枠を超えて本好きな子どもたちが集い、本について語り合える場をすること
- ・次世代に読み継がれるような本を発掘し、発信すること

<取り組みの概要>

- ・次世代に読み継がれる本を発掘し、本好きな子どもたちの活躍を応援するために「こども司書くらぶ」を結成
- ・対象は小学4年生～6年生で、毎年募集。「こども司書くらぶ」メンバーは、図書館の仕事体験や「福井市こどもの本大賞」の投票、発表会を行う

出典:図書館実践事例集～地域の要望や社会の要請に応えるために～(令和2年3月、文部科学省)

事例1-3 市立高校4校 POP バトル

さいたま市立中央図書館(埼玉県)

<ねらい>

- ・読書時間の確保が難しい高校生にとって、友人や身近な大人から薦められることが本と出会うきっかけとなることも少なくないことから、高校生が関心を寄せている本を知るとともに、イベントを通じて同世代の若者に情報を発信する

<取り組みの概要>

- ・市立高校4校の生徒がお勧め本選びとPOPの作成を行い、中央図書館・市立高校・市内の県立高校で図書とPOPを展示
- ・来館者がPOPを見て読みたくなった本を投票できるようにし、優秀作品を選定する
- ・学校図書館司書と市立図書館司書との連絡会議を年3回行い、高校生が参加しやすいよう工夫

出典:図書館実践事例集～地域の要望や社会の要請に応えるために～(令和2年3月、文部科学省)

＜具体施策(例)の詳細＞

事例1-4 学校図書館-市立図書館連携事業(ほんくる)

取手市立取手図書館・ふじしろ図書館(茨城県)

＜ねらい＞

- ・街中から書店が撤退し、遠方にある図書館に子どもだけで来館することが困難であることや家庭で子どもを図書館へ連れていくことができないなど、子どもが本と出会える機会に格差が生じている
- ・そこで、子どもたちが毎日通っている学校で市立図書館の本も受け取ることができるように、学校と市立図書館の連携事業を構築した

＜取り組みの概要＞

- ・「ほんくる」サービス:以下のようなサービスを実施
 - ①通っている学校で市立図書館の本が受け取れる
 - …市立図書館の本も自分自身でインターネットから予約し、学校で本を借りることができる
 - ②本と出会える学校図書館 Web サービスを提供する
 - …いつでも、どこでも、借りたいと思ったときに簡単な操作で本を予約することができる
 - ③1枚の「図書館利用カード」で学校図書館でも市立図書館でも本を借りることができる
 - …「ほんくる」専用の利用カードを持つことで、図書館をより身近に感じることができ、図書館とのつながりを持つきっかけとなる
- ・サービス提供のため、以下の取り組みを実施
 - ①市立図書館システムと学校図書館システムのネットワーク化
 - ②図書館と学校で使える共通の「図書館カード」の配布
 - ③図書配送網の整備(1校あたり週2回の頻度で本の配送、返却本の改修)

出典:図書館実践事例集～地域の要望や社会の要請に応えるために～(令和2年3月、文部科学省)

事例1-5 認知症カフェ

由利本荘市中央図書館(秋田県)

＜ねらい＞

- ・高齢者とその家族に向けて「認知症」や「介護」に関する正確な情報を提供し、生活の不安の軽減を図る
- ・読みやすい図書資料を揃え、施設を利用する高齢者同士の交流の機会を作る
- ・施設運営の一助となるよう、施設従事者に向けて業務の参考となる専門書を選定、提供する

＜取り組みの概要＞

- ・本市地域包括支援センターならびに高齢者介護施設と連携し、図書館への来館が困難な高齢者を対象に、「認知症カフェ」を開催する施設で移動文庫を実施している
- ・高齢者が読みやすいことを意識し、「写真集」「画集」「大活字本」など、図版を多用した図書資料の選書を心がけている
- ・また、認知症の予防に効果が期待される回想法等に活用できるよう、昔の生活や習俗などを主題とする写真集や絵本なども併せて選定している

出典:図書館実践事例集～地域の要望や社会の要請に応えるために～(令和2年3月、文部科学省)

2. 基本方針2「知の広場」としての図書館 に向けた重点施策

重点施策 レファレンスの強化と活用推進 地域資料の収集の強化と市民への発信

市民の生涯にわたっての学習を支える環境づくりに向け、読書をはじめ、生活やビジネスなどの課題解決に寄与するレファレンスの強化に取り組みます。レファレンスの強化とあわせ、その活用推進に向けた情報発信に取り組みます。

また、豊見城の地域・文化・情報の拠点となるよう、地域や行政に関する資料の収集・保管・提供により本市の文化の保存、継承に取り組むとともに、それらの資料の活用、発信に取り組みます。この他、本市の他部署や関連機関、市内の地域団体とも連携を図り、本市の新たな文化を発信することができるような環境づくりに取り組みます。

<具体施策に求められるキーワード>

- ・ 地域資料や行政資料の収集強化とその積極的な情報発信、活用
- ・ 仕事や暮らしの支援
- ・ レファレンスの取り組み強化（職員の人材育成や研修など）と情報発信

<具体施策（例）>

地域の産業等の情報提供

➤課題：5・6・8・9に対応

地域の産業・ブランド等の発展・情報発信のため、地域産業や特産品の情報提供コーナーの設置（関連書籍、商品ラベル、関連グッズなど）、スポーツチームの情報提供コーナーの設置、農業に関する情報提供コーナーの設置などを行う。

子供たちへの地域文化の継承

➤課題：5・8に対応

地域に伝わる伝承を子供たちに語り継いでいくため、小中学生を対象に、伝承の講座を行うとともに、子供語り手として発表を行い、継承を行う。

ビジネス・生活支援

➤課題：3・5・6・8・9に対応

課題解決型図書館として、仕事や暮らしに関する情報提供に注力し、マーケット情報や起業、医療、法律などの蔵書の充実、会話可能な環境整備、座席の事前予約、経営等に関する相談窓口設置、仕事や暮らしに関するセミナー等を実施する

＜具体施策(例)の詳細＞

事例2-1 うつのみやブランドコーナーの設置

宇都宮市立東図書館(栃木県)

＜ねらい＞

- ・「100年後の宇都宮に残したいもの」の収集・提供を通して、地域が誇るブランドの更なる発展

＜取り組みの概要＞

- ・うつのみやブランド(みやブラ)コーナー
 - …地域が誇るブランドの更なる発展に向けて、宇都宮の地域産業や特産品、伝統工芸品等を紹介(図書や雑誌、新聞記事だけでなく、商品のラベルやパッケージ、商品、関連グッズなど)
 - ・宇都宮プロスポーツアーカイブスコーナー
 - …宇都宮に活動拠点を置くプロスポーツチームや、市が推進する「自転車のまち宇都宮」の取り組みに関連した図書や雑誌、新聞記事、関連グッズ等を収集し提供
 - ・アグリビジネスコーナー
 - …宇都宮市の農業の活性化を支援するため、農業ビジネスに関連した図書、雑誌等を収集し提供
- ※コーナーの設置だけでなく、関連するテーマを設定して講座等を実施
 ※地元企業やプロスポーツチーム、市関係各課等と連携・協力し、実施

出典:図書館実践事例集～地域の要望や社会の要請に応えるために～(令和2年3月、文部科学省)

事例2-2 子ども語り手養成講座

田村市図書館(福島県)

＜ねらい＞

- ・子どもたちへ地域文化への親しみと誇りを養い、郷土の伝承を伝える若い語り手を育成する
- ・物語の楽しさを知るとともに、方言や伝承をする大切さなどを学ぶ

＜取り組みの概要＞

- ・田村地域に伝わる伝承を子ども達に語り継いで行く取り組みとして、子ども語り手養成講座を開講(地域の語り部(ボランティアとして協力)から直接講義)
- ・最終的には、地域の文化祭で発表

出典:図書館実践事例集～地域の要望や社会の要請に応えるために～(令和2年3月、文部科学省)

事例2-3 課題解決型図書館

札幌市図書・情報館(北海道)

＜ねらい＞

- ・市民の創造的な活動や、仕事や暮らしに関する課題の解決などを支援(都心にふさわしく、これまでの札幌市の図書館とは異なる考え方で整備・運営するもの)

＜取り組みの概要＞

- ・都心に集う人々をメインターゲットとしたこと、また、身近な悩み・課題の解決を支援するという観点から、館としての蔵書は仕事や暮らしに関する資料・情報提供にテーマを絞った
- ・会話可能な空間や、座席の事前予約が可能な環境を提供し、都心の知的空間として、過ごしやすい雰囲気づくりを心がけた

出典:図書館実践事例集～地域の要望や社会の要請に応えるために～(令和2年3月、文部科学省)

3. 基本方針3「居場所」としての図書館 に向けた重点施策

重点施策 市民ニーズに対応する「場」や「イベント」の取り組み推進

市民の、家でも、学校・職場でもない第3の居場所となる環境づくりに取り組みます。これまで図書館に興味のなかった方も含め、市民のニーズ（学習や研究、ビジネスなど）を適切にとらえ、それらのニーズに対応する場やイベントなどの取り組みを進めます。また、図書館の施設を効果的に活用し、オープンスペースなど市民の交流の場の形成に取り組みます。これらの取り組みの推進にあたっては、従来の図書館の概念にとらわれない柔軟な発想や取り組みを大切にします。

<具体施策に求められるキーワード>

- ・ 図書館に対する市民ニーズの把握
- ・ ニーズに対応した場やイベントの検討・提供
- ・ 市民の交流の推進
- ・ これまで図書館に興味のなかった層へのアプローチ
- ・ 障害や病気など支援が必要な方の活動支援

<具体施策（例）>

多様な学びのコミュニティーの形成支援

➤課題：5・8・9・10に対応

知識のインプット・アウトプットを支援していくために、インプットの場として、ワークスペース、壁面ホワイトボード、ミニキッチンを設置等により「知る」活動の支援、アウトプットの場として、3Dプリンターの設置やものづくり活動の支援により「知る」体験の支援を行う。

多様なニーズに応える読書スペースの提供

➤課題：5・9に対応

多様な読書ニーズにこたえるため、たたみやハイカウンターを設置、屋外の読書広場の設置など多様なニーズに対応できる読書スペースを提供する。

障害や病気など支援が必要な方の活動支援

➤課題：5・8・9に対応

障害や病気など支援が必要な方にとっても居場所となるよう、図書館のハードを活かした撮影会や写真展の開催、交流促進により、新たな居場所を形成する。

＜具体施策(例)の詳細＞

事例3-1 信州・学び創造ラボ

長野県立長野図書館(長野県)

＜ねらい＞

- ・「これからの図書館」における空間を切り口として、そこでの情報のあり方、情報と人の出会い方、人と人の出会い方(多様な学びのコミュニティの形成)などを試行する
- ・地域における情報拠点としてのこれからの図書館の姿を共に探っていくこと

＜取り組みの概要＞

- ・「共知・共創(共に知り、共に創る)」をコンセプトに、それまであった会議室や閲覧室をリノベーションし、約 900 m²のフロアの中に、アウトプットやインプットを促す様々なタッチポイントを埋め込んだデザイン。ラーニングcommons、メイカースペース、信州情報探索コーナーで構成
 - ・ラーニングcommons…対話し、多様な価値観に触れることで新たな社会的価値・活動を生み出していく場。マイクロライブラリー、グループワークスペース、壁面ホワイトボード、ミニキッチンが設置
 - ・メイカースペース…試行錯誤しながらのアウトプットがより深い学びとしてのインプットを促す。3D プリンタ、レーザーカッター、UV プリンタ、スキャナ、カッティングマシン等が設置
 - ・信州情報探索コーナー…紙とデジタルの融合、信州における 110 年分の知の営みを概観し、自らその情報資産を活かした創造活動のきっかけ
- ・「カフェ」「賑わい創出」「サードプレイス」といった言葉やイメージからのメニュー選びではなく、「どのような知的な創造の体験をしたいか」=「体験のデザイン」を大切にしながら皆で議論を重ねた

出典:図書館実践事例集～地域の要望や社会の要請に応えるために～(令和2年3月、文部科学省)

事例3-2 多様なニーズにこたえる読書スペースの提供

珠洲市民図書館(石川県)

＜ねらい＞

- ・お気に入りの場所でゆっくりと過ごすもよし、席を変えて気分を変えて楽しむもよし。1日いても飽きない図書館を目指す

＜取り組みの概要＞

- ・一般図書コーナーには、靴を脱ぎ、足をのばして座椅子でくつろげる「たたみ席」や、カフェ気分が味わえる「ハイカウンター席」を設け、児童図書コーナーには、ポップな配色のスツール・椅子を用意し、読書がより楽しく感じられるような空間とした
- ・敷地内(屋外)に「読書の広場」を設け、利用者が長時間、読書を楽しみながらくつろぐことのできる図書館を目指している

出典:図書館実践事例集～地域の要望や社会の要請に応えるために～(令和2年3月、文部科学省)

事例3-3 かるぺでいえむフォト×夜の図書館展

多賀城市立図書館(宮城県)

<ねらい>

- ・市内でがんの診断を受けてから、ハンデがありながらも、その後を生きているがんサバイバーやマイノリティの自己表現の後援活動について市民が知る機会を提供する

<取り組みの概要>

- ・市内在住のがんサバイバーなどの方を撮影する撮影会を夜の図書館内で実施
- ・あわせて、誰でも更なる自己表現をするきっかけとなるようにをコンセプトにその写真展を実施
- ・利用者のいない閉館後の夜間に撮影する事で図書館のハードとしての活用と新たな価値利用を提案
- ・開催に合わせて撮影のモデルとなったがんサバイバーの方とのシンポジウムやヒューマンライブラリーの実施など他イベントと連携した事業
- ・「福祉」という観点と「写真」というアートの観点と複合的に利用者に評価され価値創造性の高い事業
- ・市内のがんサバイバーの方同士の交流が生まれ、コミュニティが創出

出典:図書館実践事例集~地域の要望や社会の要請に応えるために~(令和2年3月、文部科学省)

事例3-4 利用者サービスの向上を目的としたカフェテリア整備

北九州市立中央図書館(福岡県)

<ねらい>

- ・市民が気軽に利用できるとともに、利用者サービスの向上を目的に、館内にカフェテリアを整備

<取り組みの概要>

- ・飲食コーナーだったエリアを、くつろいで読書のできる環境の充実に向けて、カフェテリアを整備
- ・運営は障害者の自立支援に取り組む市内のNPO法人
- ・カフェテリア内にも書棚を設け、閲覧・貸出ができるようにするとともに、カフェ内の図書を一般室に持ち込むことも、一般室の図書をカフェテリア内にもちこむことも可能

出典:北九州市ホームページ

4. 基本方針4 「ともに創る」図書館 に向けた重点施策

重点施策

図書館の計画や運営に関する市民参画
地域団体と連携した図書館運営

これまでに記載した3つの重点的な取り組みをはじめ、図書館の運営にあたっては、積極的に市民意向の取り入れを行います。本計画のような図書館行政に関する計画策定や毎年の事業計画の検討にあたっては、市民意向の把握やパブリックコメント等により市民意向の反映に取り組みます。

また、市民ボランティアによる読み聞かせ、自治会への団体貸出、中央公民館サークルの活動発表など、地域団体と連携した図書館運営に取り組みます。

＜具体施策に求められるキーワード＞

- ・ 計画的な運営
- ・ 市民参画
- ・ 地域団体との連携

＜具体施策（例）＞

市民参加による図書館魅力化

＞課題：1～10 に対応

魅力ある図書館を市民とともに作り上げるため、利用者が考える図書館の将来像を市民参加型ワークショップにて検討、その実現を目指す。

また、図書館へのきっかけづくりとして、図書館の敷地内で市民や市民団体が食べ物・飲み物・小物等を販売するマルシェを行う。あわせて、それに関する書籍の展示により読書へつなげる。

地域と連携した図書館

＞課題：1・5・6・8・9・10 に対応

地域一体となった図書館の利用促進を図るため、商業施設と連携した取り組み（商業施設のイベントとあわせたりサイクル本の譲渡会など）、大学と連携した取り組み（研究展示）、地域のイベントと連携した取り組み、公共交通と連携した取り組みを行う。

<具体施策(例)の詳細>

事例4-1 図書館魅力化事業～ツマル!としょかんプロジェクト～

益田市立図書館(島根県)

<ねらい>

- ・図書館は本を借りるところという固定概念をくずし、図書館の新たな利用者確保するため、「図書館に足を運ぶためのきっかけづくり」として実施
- ・プロジェクトの参加者が、図書館の新たな価値付けを持続的に行うことができる主体者へと変革することをねらう

<取り組みの概要>

■図書館魅力化事業～ツマル!としょかんプロジェクト～

- ・「図書館って、行って、本を借りて、帰る…なんだか、それだけじゃあツマンナイ。では、自分たちにとって“ツマル図書館”ってどんな図書館？」という問いのもと、自分たちの足で図書館を巡り、気になるところを写真に撮り、ほしい図書館像を話し合うワークショップを開催(子育て世代対象、仕事終わりの社会人対象、小・中学生対象、自由参加のワークショップの全4回)し、ワークショップで得られた168の気づきから、図書館が“ツマル”ための20のアイデアが生まれた
- ・その後、その実現を目指して活動を実施
- ・また、その活動の参加者が、図書館の新たな価値付けを持続的に行うことができる主体者へと変革することをねらう

■来(らい)ぶらりマルシェ

- ・手作りの食べ物・飲み物・小物等をはじめとした、スキルを有する市民及び市民団体が、図書館前庭(雨天時は図書館内)で手作りの食べ物・飲み物・小物等の出店販売を行う(月1回程度)
 - ・出展販売を行う際は、その内容と連携する書籍を展示するなど、自然と図書と触れる機会づくりを実施
- 出典:図書館実践事例集～地域の要望や社会の要請に応えるために～(令和2年3月、文部科学省)

事例4-2 地域連携

能代市立能代図書館(秋田県)

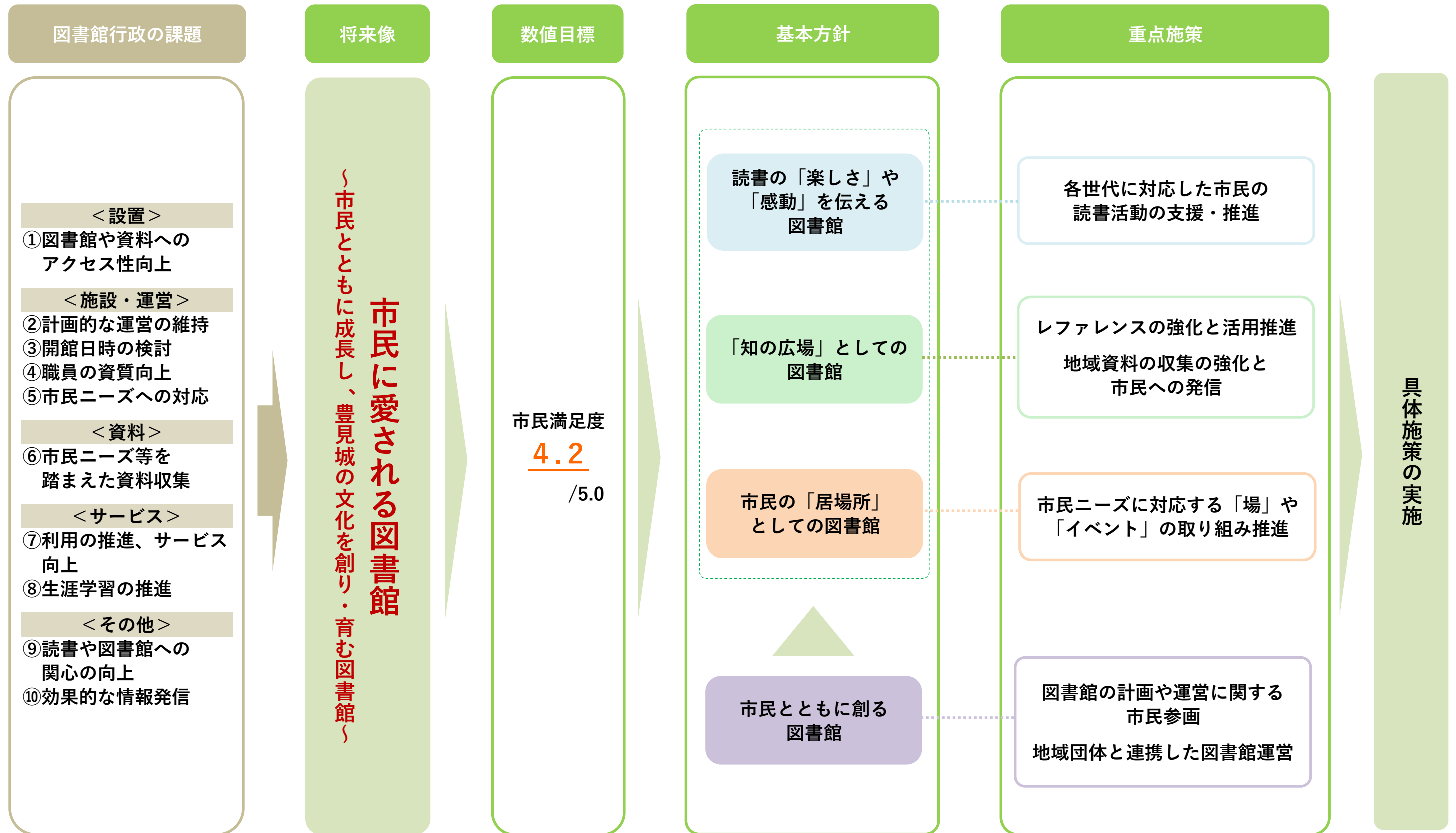
<ねらい>

- ・地域の企業・団体がもつ文化的・教育的側面に着目し、連携を深めることで、地域一帯となった図書館の利用促進を図る

<取り組みの概要>

- ・商店街との連携(年1～2回)
 - …地域の商店街のイベントとあわせ、「ビブリオバトル」や「本のリサイクル市」といったイベントを開催した。商店街と連携することで、お客様が足を運ぶきっかけが増え、結果的に図書館の利用促進と地域全体の活性化に寄与することができた。
 - ・雑誌スポンサー制度及びスポンサー展の実施(年1回)
 - …現在、雑誌スポンサー制度を活用し、市内17社が22誌の雑誌スポンサー。毎年、雑誌スポンサー展を開催し、多くの利用者に図書館と地元企業との連携を知っていただく機会を創出
 - ・大学との連携(年数回)
 - …秋田県立大学木材高度加工研究所と連携し、さまざまな木材研究開発作品の館内展示を実施
- 出典:図書館実践事例集～地域の要望や社会の要請に応えるために～(令和2年3月、文部科学省)

■ 豊見城市図書館基本計画の施策体系



第5章 本計画の推進に向けて

本計画は以下のとおり、推進を図ります。

5-1 本計画の推進

本計画は10年後を目標年次として本市の図書館行政の将来像を示したもので、今後、本計画に基づき、また、図書館の利用状況や社会情勢などを踏まえ、各種施策を計画的に実施します。

各種施策の検討・実施にあたっては、PDCAサイクル【本計画を基に具体的な施策を検討するPlan（計画）、その具体的な施策を実施するDo（実施）、実施した施策の確認・評価を行うCheck（評価）、評価を基に施策や計画を見直すAction（改善）のサイクル】を確実に推進します。また、これらの進行管理にあたっては、進捗状況を市民に公表し、市民の意見も踏まえながら実施します。



5 - 2 本計画の推進体制

具体施策の実施にあたっては中央図書館が中心となりながら、関係する庁内各課・各種団体と連携して取り組みます。

＜本計画の推進体制＞

取り組み事項		関係部署
施策の検討・実施	全体とりまとめ（司令塔）	生涯学習振興課図書館班 中央図書館
	中央図書館・電子図書館に関すること	生涯学習振興課図書館班 中央図書館
	学校図書館に関すること	学校教育課 各学校
	地域団体との連携した取り組み	協働のまち推進課 自治会 地域団体
	地域文化に関する取り組み	文化課
	子育てに関する取り組み	こども応援課
	高齢者・障害者・福祉に関する取り組み	障がい長寿課
評価		中央図書館協議会
		市教育委員会「点検と評価」※

※地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第1号に定める「点検と評価」

5 - 3 本計画の見直し

図書館行政をとりまく環境は、市民ニーズの多様化や少子高齢化等の社会情勢の変化など刻一刻と変化しており、社会情勢、市民のライフスタイル・価値観の変化、市の財政状況などに応じて、柔軟に対応していくことが求められます。

そのため、本計画の計画期間である10年後を目安に本計画を見直すこととしますが、社会情勢の変化や上位関連計画の更新を踏まえ、必要に応じて計画の見直しを行います。

豊見城市図書館基本計画 [初版]

令和 4 年 3 月

策 定：豊見城市教育委員会生涯学習振興課（図書館班）

〒901-0232 沖縄県豊見城市字伊良波 392 番地

TEL:098-856-6006 FAX：098-856-8044

ホームページ：<https://www.city.tomigusuku.lg.jp/>

